

令和 4 年 5 月 23 日現在

機関番号：14401

研究種目：特別推進研究

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06290

研究課題名(和文)小胞体糖修飾の統合的ケミカルバイオロジー

研究課題名(英文)Chemical Biology of ER related glycan modifications

研究代表者

伊藤 幸成 (ITO, YUKISHIGE)

大阪大学・理学研究科・招へい教授

研究者番号：80168385

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 330,870,000円

研究成果の概要(和文)：真核細胞の小胞体における糖修飾に着目し、1)タンパク質のフォールディングに関わる糖修飾、2)トリプトファンC-マンノシル(CMW)化、3)グルコシル化糖脂質(PtdGlc)を主な対象に研究を行った。タンパク質のフォールディング過程に関しては、合成した糖タンパク質や糖鎖誘導体を用いた種々の実験系を確立し、その精密解析と選択的制御に道を拓いた。CMWの新たな測定系による組織分布の解析や腫瘍マーカーへの展開を行い、タンパク質品質管理機構への関与に関する知見を得た。更にPtdGlcの生合成に関わる酵素を同定するとともに、創薬との関連で興味を集めているGPR55制御分子の創製に新たな方向性を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

真核細胞の小胞体は多彩な機能を担っている。本課題は、小胞体において生み出される様々な糖質シグナルを対象とするものである。小胞体内糖鎖や糖タンパク質の化学合成を駆使して、タンパク質のフォールディングにおける糖鎖の機能解明を行った。新たな腫瘍マーカーの開発や疾病との関連などにおいても新規な知見をえた。また、小胞体内糖脂質をリードとする細胞機能制御分子の開発や疾患との関連についても成果を得た。これらは本課題ならではの成果であり、医療への展開も期待できるものである。

研究成果の概要(英文)：Among glycan modification in the endoplasmic reticulum of eukaryotic cells, this project has focused on 1) sugar modification related to protein folding, 2) tryptophan C-mannosyl (CMW) modification, and 3) glucosylated glycolipid (PtdGlc). Regarding the folding process of proteins, we have established various experimental systems using chemically synthesized glycoproteins and glycan derivatives, and paved the way for their precise analysis and selective control. We established the system to analyze the tissue distribution of CMW and expanded the study into the development of tumor markers. Insights into the involvement of CMW in protein quality control mechanisms were also obtained. Furthermore, we identified the enzymes involved in the biosynthesis of PtdGlc and showed a new direction for the creation of GPR55 regulatory molecules, which are of interest in the context of drug discovery.

研究分野：糖質化学、糖鎖生物学

キーワード：糖タンパク質 小胞体 フォールディング グルコース転移酵素 糖脂質 GPR55

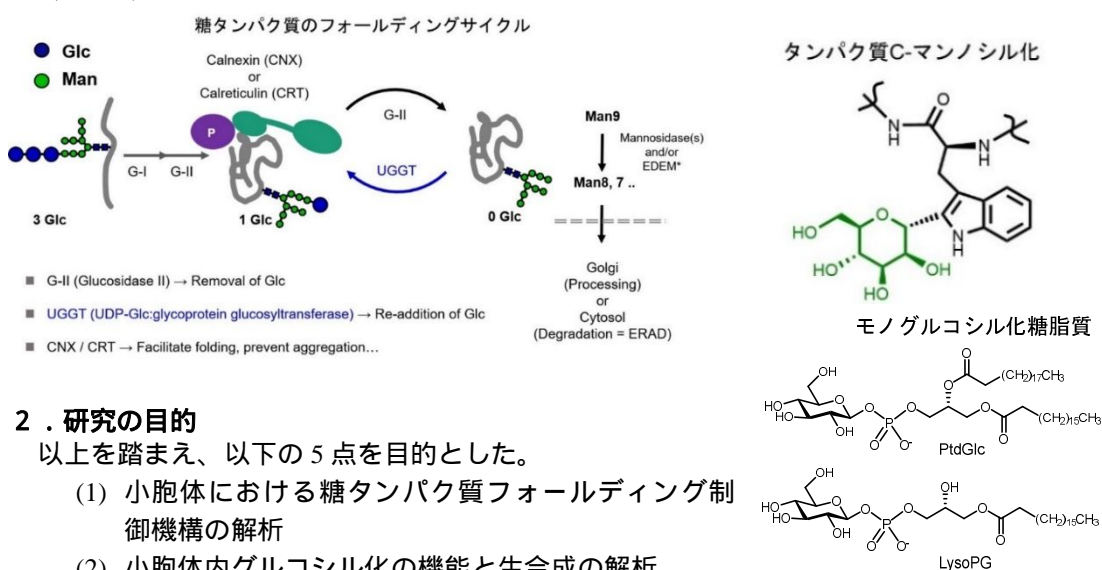
様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

小胞体は翻訳時・翻訳後修飾として特に重要な N-グリコシル化の場である。小胞体には様々なレクチン、酵素が密接に連携し総合的に働く糖タンパク質品質管理機構が存在し、フォールディング中のタンパク質に付加されている糖鎖がシグナル分子として機能している。この過程に関して、フォールディングサイクルに関わるレクチンシャペロン (CNX, CRT)、グルコシダーゼ II、グルコース転移酵素 (UGGT) を中心に研究を展開して来たが、その他の酵素やレクチンにも対象を広げる必要を感じていた。また、糖鎖のみならず、均一な糖タンパク質を基質として駆使して上記過程の統合的な解析を進める体制が整っていた。

一方、トリプトファン側鎖 C-マンノシル化 (CMW) の生物機能、特にタンパク質機能制御における役割は謎に包まれていたが、最近になり、自然免疫シグナル制御に加えてタンパク質の品質管理機構への関与が示唆されていた。

小胞体は脂質の合成を司る場でもある。ホスファチジルグルコシド (PtdGlc) のリゾ体 (LysoPG) が G タンパク質共役受容体 (GPR55) を活性化し、神経細胞軸索ガイダンスにおけるシグナルとなっていることが明らかにされていた (<https://doi.org/10.1126/science.aab3516>)。また、これまでの実験データから PtdGlc を合成する酵素が糖タンパク質の品質管理に関するグルコース転移酵素 (UGGT) と同一であるという仮説に至っていた。



2. 研究の目的

以上を踏まえ、以下の5点を目的とした。

- (1) 小胞体における糖タンパク質フォールディング制御機構の解析
- (2) 小胞体内グルコシル化の機能と生合成の解析
- (3) 新規なリゾホスファチジルグルコシド関連分子の創成による細胞機能調節
- (4) CMW 糖修飾の生物機能
- (5) 小胞体内糖鎖の合成における新手法の開発

これらを総合し、糖タンパク質、脂質のグルコシル化、タンパク質のフォールディング制御、C-マンノシル化における共通項を探ることで、統合的な学問分野に発展させることを目指した。

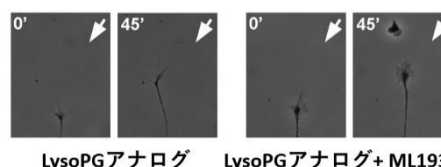
3. 研究の方法

「2. 研究の目的」欄の番号に従って記載する

- (1) 小胞体における糖鎖認識酵素や分子シャペロンの機能解析を行うために、精密有機合成によって調製した均一糖鎖に、標的タンパク質の性質や機能に応じた置換基を付与した糖鎖プローブを活用し、研究に取り組んだ (DOI: 10.1002/chem.202004158)。それと補完的な手法として、鶏卵から単離可能な糖鎖を用い、糖タンパク質・糖ペプチドを化学的に合成した。糖タンパク質の合成は、化学合成した糖ペプチドフラグメントを Native Chemical Ligation (NCL) で連結させる手法を用いて行い、実験に供した。これら試料をラット肝臓細胞から単離した小胞体破碎液に加え、糖タンパク質のリフォールディングを LCMS で追跡し、解析した。また、NMR でその構造を追跡する場合は、安定同位体 (^{15}N) で標識された糖ペプチドを合成し利用した。小胞体内マンノシダーゼとして機能する EDEM 類の解析については、糖アミノ酸のアスパラギン部分にリンカーを介して種々のアグリコンを導入し、それらの反応性を比較した。小胞体内フォールディング機構を司るカルネキシン (CNX) と相互作用

用する PDI ファミリータンパク質を探索するために CNX 固定化粒子を作成し、ERp29 との相互作用解析に供した。

- (2) 小胞体内グルコシル化に関わる糖転移酵素 UGGT とその補助因子 Sep15 の性質、立体構造、相互作用に関する情報を得るために、哺乳細胞発現系で調製した。更に、両者の複合体を作成し、その電子顕微鏡観察を実施した。また、UGGT と Sep15 の複合体に対して光反応性クロスリンカーを用いて架橋し、結合位置の同定を行った。更に、UGGT の二種類のアイソフォーム (UGGT1, 2) を用いて、化学的に合成したホスファチジン酸 (PA) に対するグルコース転移活性を比較した。
- (3) ホスファチジン酸 (PA) から生合成されるホスファチジルグルコシド (PtdGlc) のリソ体 (LysoPG) をリードに新規カンナビノイド受容体 GPR55 の制御分子の開発を行った。具体的には、グルコースを 1-アミノ体へと変換した後、スクアリン酸ジエステルおよび脂質部分と順次反応させ、様々な LysoPG 類縁体へと導いた。理化学研究所 Adam T. Guy 博士 (現京都大学) との共同研究でこれらの活性を評価した。神経細胞成長円錐に対する chemorepulsion (DOI: 10.1126/science.aab3516) を指標に評価を行うとともに GPR55 アンタゴニスト (ML193) の影響を見た (右図)。
- (4) CMW 化されたタンパク質として動物細胞で発現させた Mindin を調製した。併せて、還元剤存在下塩酸グアニジンで処理することで、変性した Mindin を得た。更に、N-末端の CMW 化されない F-スポンジドメイン (F-Spon) を HEK293 細胞の発現系で得た。これらを用いて、CMW 化部位特異的に結合する小胞体タンパク質を探索し候補分子を同定した。単量体の CMW や CMW 含有ペプチドは以前に報告した手法 (DOI: 10.1002/chem.200390163) に従って合成したものをを用いた。卵巣癌と子宮内膜症の患者血清サンプル (総数 350 検体分) と臨床データを入手し、CMW 測定と臨床データの解析を行うと共に、初代培養神経細胞のシナプス形成や上皮細胞の細胞接着における作用について解析した。
- (5) 新規な糖供与体をデザインし、モデル基質と反応を行って、その反応効率および選択性を評価した。



4. 研究成果

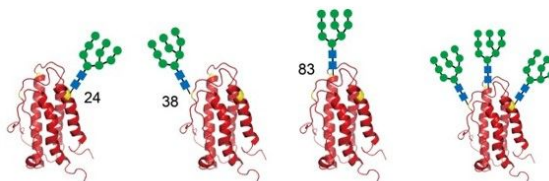
(1) タンパク質フォールディングにおける糖鎖の役割

- ・糖ペプチドとフォールディングセンサー酵素 UGGT との相互作用を核磁気共鳴法で追跡し、疎水性アミノ酸と UGGT との相互作用を明らかにした (DOI: 10.1021/jacs.7b03277)。また、小胞体内の糖タンパク質リフォールディングは、UGGT、カルネキシン等のシャペロン、そしてグルコシダーゼ II がオーダード型で相互作用し、このプロセスは触媒的に進むことを明らかにした (DOI: 10.1021/jacs.8b08653)。
- ・UGGT が糖タンパク質のリフォールディングを促進することを見出した。これは UGGT がシャペロンとしても働いていることを示唆するものである (DOI: 10.1016/j.bbagen.2020.129709)。
- ・メタボリックシンドロームなどの疾患の進行度と糖タンパク質フォールディングに関わる糖鎖プロセッシング酵素の活性との関連を見出した (DOI: 10.1002/1873-3468.13780)。
- ・合成糖鎖プローブと阻害剤を精密に使い分けることで、これまで不明であった小胞体内でのマンノース切断経路に関して、複数の EDEM 類が独立して糖タンパク質分泌シグナル産生経路と分解シグナル産生経路に関与することを明らかにした (DOI: 10.1002/cbic.20170008)。
- ・上記と関連して、小胞体内の α -1,2-マンノシダーゼ類 (EDEM1, EDEM2, EDEM3) が、高マンノース糖鎖分岐鎖の末端 Man α 1-2Man 構造に加えて、ひとつ内側の結合様式の違い (α -1,2 / α -1,3 / α -1,6) を識別していることを実験的に証明し、EDEM 類の基質糖鎖認識機構の一旦を明らかにした (DOI: 10.1039/d1ob00428j)。
- ・更に、研究期間の最終段階において、合成糖鎖基質を用いた実験により EDEM3 の α -1,2-マンノシダーゼ活性を明確に示すと共に、糖鎖に結合したアスパラギン残基が重要な役割を担っていることを明らかにした (DOI: 10.1016/j.bbrc.2022.04.094)。
- ・小胞体内の分子シャペロン (GRP94 / BiP / CRT) がクライアントタンパク質の 2 次構造の違い

を識別して使い分けられていることを明らかにした。これにより小胞体内に複数の分子シャペロンが存在している必要性を実験的に証明した (DOI: 10.1021/acsomega.9b04445)。

- ERp29 が小胞体内シャペロンであるカルネキシン (CNX) と会合することが分かった。化学架橋法や CNX 固定化粒子を用いた実験から、ERp29 は 2 分子の CNX を連結するリンカーとして機能することを示した (DOI: 10.1016/j.bbrc.2020.12.023, 10.1016/j.bbrc.2017.04.139)。
- 糖鎖の数、位置を変化したエリスロポエチン (EPO) およびインターフェロン β を合成後、小胞体破碎液に加え UGGT の認識機構を調べた。その結果、EPO は、正しくフォールディングしていても疎水性度が非常に高いため、UGGT はミスフォールド体の目印に相当するグルコースを EPO の M9 糖鎖末端に転移することを確認した。 (DOI: 10.1021/jacs.8b08653)。
- また、本研究の成果で得られた合成手法をもちいて、赤血球増殖活性をもつエリスロポエチンの合成 (DOI: 10.1021/jacs.0c08719) や、ユビキチンが結合したミスフォールド糖タンパク質の合成 (DOI: 10.1021/acs.joc.0c01766) にも成功した。

様々な位置に糖鎖を持つ合成EPO

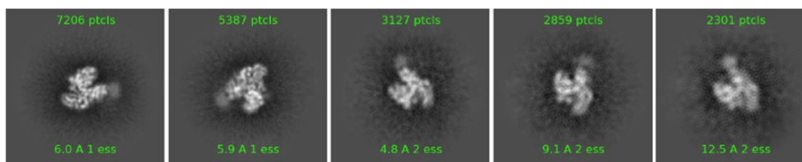


- 多様な糖鎖プローブと小胞体画分を駆使した精密解析によって、小胞体内にはエンドマンノシダーゼ活性が存在し、分解経路の一端を担っている可能性を示唆する結果を得た。その構成要素としてカルボキシルエステラーゼが含まれていることを明らかにした。エンドマンノシダーゼ活性を高感度で検出する基質の開発にも成功している (DOI: 10.1002/asia.201900240)。
- 上記研究の過程で、endomannosidase 変異体が顕著な糖転移活性を有することを見出し、糖鎖の酵素化学的合成に新たな道を開いた (DOI: 10.1002/cbic.201700111)。
- 我々は以前に糖タンパクフォールディングサイクルを UDP-5S-Glc が阻害する可能性を見出していた (DOI: 10.1039/C6RA16476E)。そこで UDP-5S-Glc を共存させて小胞体破碎液でのフォールディング実験をおこなった。その結果、MCP-1 のフォールディングが顕著に阻害されることが確認できた。現在は、このサイクルに関わる UGGT の活性自体を阻害する化合物の創製に取り組んでおり、すでに初期的な結果を得ている。2022 年度に新たに採択された科研費の課題として継続的に検討を進める。

(2) 小胞体内タンパク質グルコシル化の機能解析

- 小胞体グルコース転移酵素 UGGT のドメインが担う機能を更に調べるため、麹菌由来 UGGT の活性中心を含む C 末端側ドメインの調製を行った。更に UGGT と会合し、その活性を高めると考えられるセレノタンパク質 Sep15 (DOI: 10.1093/glycob/cwt163) の結合部位を同定した。
- 上記複合体の構造的基盤を調べるため、UGGT1 および Sep15 をサイズ排除クロマトグラフィー-HPLC で分析したところ、それぞれ単独では単量体として存在すること、また両者を混合することにより安定な複合体を形成することを確認した (右図)。

ネガティブ染色による電子顕微鏡像の観察を行った

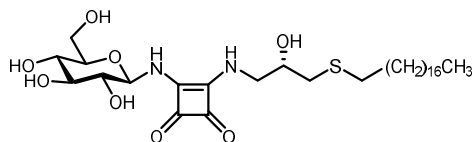


ところ、UGGT1 単体は、主に単量体として観察され、分子が折り畳まれた構造を形成していた (山口、武田ら 未発表)。UGGT1-Sep15 複合体では、UGGT1 と Sep15 は 1:1 の量比で結合しており、UGGT1 の折り畳まれた構造は Sep15 と結合しても概ね維持されていた。また、UGGT1 に対する Sep15 の相対配置は固定されたものではなく、ある程度の揺らぎが存在することが考えられた。

- 本課題の対象であるホスファチジルグルコシド (PtdGlc) の生合成に関して研究を進め、UGGT2 が *in vitro* で PtdGlc を合成する活性を有するという結果を得た。また、UGGT2 の KO 細胞は ER ストレスに対して高い感受性を示すことも見出した。これらの内容については現在論文投稿中であり、accept に向けて鋭意努力中である。

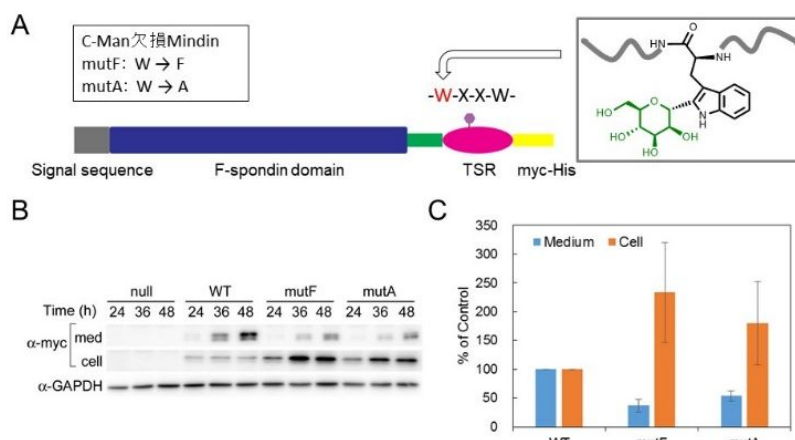
(3) 新規なりゾホスファチジルグルコシド関連分子の創成による細胞機能調節

・ GPR55 は創薬のターゲットとして注目されている GPCR の一つである。我々は、LysoPG がその内在性リガンドであることに着目し、その構造展開を試みた。まず、種々の LysoPG 誘導体を用いて活性を比較することにより、GPR55 アゴニスト活性に重要な構造的要素を明らかにした (DOI: 10.1021/acschemneuro.8b00505)。その情報をもとに、更に、スクアリン酸ジアミドを介して糖を脂質に結合させた LysoPG アナログ (右図) およびその誘導体を迅速かつ系統的に合成する手法を開発した。合成した化合物のいくつかは LysoPG と類似の活性を持つことを見出し (DOI: 10.1039/c8cc04467h)、系統的な構造活性相関研究へと展開した (DOI: 10.1039/d0ob01756f)。また、脂質部分の鎖長を短くすると GPR55 に対するアンタゴニストへと活性が逆転することが分かった (DOI: 10.1039/c8cc04467h)。



(4) C-マンノシル化糖修飾の生物機能

・ Mindin をモデルとして、C-マンノシル (Man) 化とタンパク質品質管理との関連について解析を進めてきた (右図)。その結果、C-Man 化がタンパク質の酸化・還元フォールディングに関与することがわかった (DOI: 10.1016/j.bbagen.2020.129632)。さらに、C-Man 転移反応が、小胞体におけるドリコール-リン酸-マンノースの合成経路不全細胞株では著しく抑制されることから、本経路がマンノース基質の供給源として重要であることもわかった。C-マンノシル化部位特異的に Mindin と細胞内で結合するタンパク質の検索を試みた結果、



複数のプロテインジスルフィドイソメラーゼ (PDI) ファミリータンパク質 (PDIA3, PDIA4, TXNDC5) が同定された (未発表)。今後は、Mindin の小胞体内の酸化・還元フォールディングにおける C-Man 化の関与と PDI タンパク質の役割について解析を進める必要がある。

- ・ C-Man 化修飾の最小単位である C-Man-Trp (CMW) の分析測定系を新たに確立し、その組織分布を解析することができた (DOI: 10.1038/s41598-021-81479-y, 10.1038/s41598-019-41278-y)。
- ・ C-Man 化糖修飾の細胞生理機能について、化学合成した C-Man-WSPW ペプチドを用いた研究から、C-Man 化ペプチドは、TGF- β シグナルを抑制することで、神経細胞のシナプス形成を阻害することが明らかとなった (DOI: 10.1016/j.biochi.2021.10.007)。また、C-Man 化ペプチドが上皮系細胞内の actinin-4 と結合して、細胞接着分子 E-カドヘリン発現レベルの減少とアドヘレンスジャンクション形成の阻害を引き起こすことが明らかとなった。
- ・ C-Man-Trp (CMW) が卵巣癌患者血中で増加することを見出した。卵巣癌患者と良性の子宮内膜症患者の血清サンプル (総数 350 検体分) と臨床データを入手し、解析を行い、CMW の卵巣癌マーカーとしての可能性を確認できた (DOI: 10.3892/ol.2019.111161)。

(5) 糖鎖合成手法の開発

糖鎖合成の迅速化、高効率化を目指して研究を継続的に行った。新規な供与体や反応条件によりグリコシド結合を簡便に作り分ける手法を開発した (DOI: 10.1021/acs.orglett.8b01922, 10.1021/acs.orglett.8b01979, 10.1021/acs.joc.0c00292, 10.1021/acs.joc.1c02091)。これらは、小胞体存在するアスパラギン結合型糖鎖の合成において有用な方法論になることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計98件（うち査読付論文 96件／うち国際共著 16件／うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 Ding, F.; Zhao, X.; Huang, Y.; Zhou, A.; Ao, J.; Cai, H.; Tanaka, K., Ito, Y., Ishiwata, A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Recent chemical and chemoenzymatic strategies to complex-type N-glycans.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers Chem	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fchem.2022.880128/abstract	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Kikuma Takashi, Ibuki Haruka, Nakamoto Masaya, Seko Akira, Ito Yukishige, Takeda Yoichi	4. 巻 612
2. 論文標題 In vitro mannosidase activity of EDEM3 against asparagine-linked oligomannose-type glycans	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 44～49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.bbrc.2022.04.094	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kuribara Taiki, Totani Kiichiro	4. 巻 11
2. 論文標題 Oligomannose-Type Glycan Processing in the Endoplasmic Reticulum and Its Importance in Misfolding Diseases	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biology	6. 最初と最後の頁 199～199
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/biology11020199	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ikezaki Midori, Nishitsuji Kazuchika, Matsumura Ko, Manabe Shino, Shibukawa Yukinao, Wada Yoshinao, Ito Yukishige, Ihara Yoshito	4. 巻 192
2. 論文標題 C-Mannosylated tryptophan-containing WSPW peptide binds to actinin-4 and alters E-cadherin subcellular localization in lung epithelial-like A549 cells	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Biochimie	6. 最初と最後の頁 136～146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.biochi.2021.10.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyanishi Wataru, Ojika Makoto, Akase Dai, Aida Misako, Igarashi Yasuhiro, Ito Yukishige, Nakagawa Yu	4. 巻 55
2. 論文標題 d-Mannose binding, aggregation property, and antifungal activity of amide derivatives of pradimicin A	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bioorganic & Medicinal Chemistry	6. 最初と最後の頁 116590 ~ 116590
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmc.2021.116590	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Zhou Siai, Zhong Xuemei, Guo Aoxin, Xiao QianAo Jiaming, Zhu Wanmeng, Cai Hui, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige, Liu Xue-Wei, Ding Feiqing	4. 巻 23
2. 論文標題 ZnI2-Directed Stereocontrolled α -Glucosylation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Organic Letters	6. 最初と最後の頁 6841 ~ 6845
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.orglett.1c02405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Zhong Xuemei, Zhou Siai, Ao Jiaming, Guo Aoxin, Xiao Qian, Huang Yan, Zhu Wanmeng, Cai Hui, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige, Liu Xue-Wei, Ding Feiqing	4. 巻 86
2. 論文標題 Zinc(II) Iodide-Directed α -Mannosylation: Reaction Selectivity, Mode, and Application	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Organic Chemistry	6. 最初と最後の頁 16901 ~ 16915
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.joc.1c02091	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nitta Kyohei, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro	4. 巻 19
2. 論文標題 Synthetic trisaccharides reveal discrimination of endo-glycosidic linkages by exo-acting α -1,2-mannosidases in the endoplasmic reticulum	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Organic & Biomolecular Chemistry	6. 最初と最後の頁 4137 ~ 4145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/d1ob00428J	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishitsuji Kazuchika, Ikezaki Midori, Manabe Shino, Uchimura Kenji, Ito Yukishige, Ihara Yoshito	4. 巻 -
2. 論文標題 Thrombospondin type 1 repeat-derived C-mannosylated peptide attenuates synaptogenesis of cortical neurons induced by primary astrocytes via TGF-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Glycoconjugate Journal	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10719-021-10030-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakao Hitomi, Seko Akira, Ito Yukishige, Sakono Masafumi	4. 巻 536
2. 論文標題 Dimerization of ER-resident molecular chaperones mediated by ERp29	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 52 ~ 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2020.12.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa Yu, Kakihara Shintaro, Tsuzuki Kazue, Ojika Makoto, Igarashi Yasuhiro, Ito Yukishige	4. 巻 84
2. 論文標題 A Pradimicin-Based Staining Dye for Glycoprotein Detection	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Natural Products	6. 最初と最後の頁 2496 ~ 2501
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.jnatprod.1c00506	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa Yu, Yamaji Fumiya, Miyanishi Wataru, Ojika Makoto, Igarashi Yasuhiro, Ito Yukishige	4. 巻 94
2. 論文標題 Binding Evaluation of Pradimicins for Oligomannose Motifs from Fungal Mannans	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Bulletin of the Chemical Society of Japan	6. 最初と最後の頁 732 ~ 754
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1246/bcsj.20200305	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita Shuhei, Inai Yoko, Minakata Shiho, Kishimoto Shohei, Manabe Shino, Iwahashi Naoyuki, Ino Kazuhiko, Ito Yukishige, Akamizu Takashi, Ihara Yoshito	4. 巻 11
2. 論文標題 Quantification of serum C-mannosyl tryptophan by novel assay to evaluate renal function and vascular complications in patients with type 2 diabetes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 1946
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-81479-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Minakata Shiho, Manabe Shino, Inai Yoko, Ikezaki Midori, Nishitsuji Kazuchika, Ito Yukishige, Ihara Yoshito	4. 巻 26
2. 論文標題 Protein C-Mannosylation and C-Mannosyl Tryptophan in Chemical Biology and Medicine	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Molecules	6. 最初と最後の頁 5258 ~ 5258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/molecules26175258	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li Xiaojia, Hanafusa Kei, Kage Madoka, Yokoyama Noriko, Nakayama Hitoshi, Hotta Tomomi, Oshima Eriko, Kano Koki, Matsuo Ichiro, Nagatsuka Yasuko, Takamori Kenji, Ogawa Hideoki, Hirabayashi Yoshio, Iwabuchi Kazuhisa	4. 巻 569
2. 論文標題 Lysophosphatidylglucoside is a GPR55 -mediated chemotactic molecule for human monocytes and macrophages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 86 ~ 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2021.06.090	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuribara Taiki, Usui Ruchio, Totani Kiichiro	4. 巻 502
2. 論文標題 Glycan structure-based perspectives on the entry and release of glycoproteins in the calnexin/calreticulin cycle	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Carbohydrate Research	6. 最初と最後の頁 108273 ~ 108273
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carres.2021.108273	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuribara Taiki, Totani Kiichiro	4. 巻 68
2. 論文標題 Structural insights into N-linked glycan-mediated protein folding from chemical and biological perspectives	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Opinion in Structural Biology	6. 最初と最後の頁 41 ~ 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sbi.2020.11.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kano Koki, Ishii Nozomi, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Greimel Peter, Matsuo Ichiro	4. 巻 6
2. 論文標題 Stereocontrolled Synthesis of Lyso phosphatidyl D Glucoside	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ChemistrySelect	6. 最初と最後の頁 6811 ~ 6815
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/slct.202102176	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwahashi Naoyuki, Ikezaki Midori, Nishitsuji Kazuchika, Yamamoto Madoka, Matsuzaki Ibu, Kato Naoki, Takaoka Naoyuki, Taniguchi Mana, Murata Shin-ichi, Ino Kazuhiko, Ihara Yoshito	4. 巻 10
2. 論文標題 Extracellularly Released Calreticulin Induced by Endoplasmic Reticulum Stress Impairs Syncytialization of Cytotrophoblast Model BeWo Cells	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cells	6. 最初と最後の頁 1305 ~ 1305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/cells10061305	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Huang Chengcheng, Seino Junichi, Fujihira Haruhiko, Sato Keiko, Fujinawa Reiko, Sumer-Bayraktar Zeynep, Ishii Nozomi, Matsuo Ichiro, Nakaya Shuichi, Suzuki Tadashi	4. 巻 32
2. 論文標題 Occurrence of free N-glycans with a single GlcNAc at the reducing termini in animal sera	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Glycobiology	6. 最初と最後の頁 314 ~ 332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/glycob/cwab124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wang Ning, Seko Akira, Takeda Yoichi, Ito Yukishige	4. 巻 1864
2. 論文標題 Glycan dependent refolding activity of ER glucosyltransferase (UGGT)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - General Subjects	6. 最初と最後の頁 129709 ~ 129709
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbagen.2020.129709	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sano Kanae, Ishii Nozomi, Kosugi Misa, Kuroiwa Ayumi, Matsuo Ichiro	4. 巻 494
2. 論文標題 Efficient synthesis of (1,2)-linked oligomannoside derivatives through one-pot glycosylation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Carbohydrate Research	6. 最初と最後の頁 108072 ~ 108072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carres.2020.108072	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagae Masamichi, Yamaguchi Yoshiki, Taniguchi Naoyuki, Kizuka Yasuhiko	4. 巻 21
2. 論文標題 3D Structure and Function of Glycosyltransferases Involved in N-glycan Maturation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Molecular Sciences	6. 最初と最後の頁 437 ~ 437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijms21020437	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Minakata Shiho, Inai Yoko, Manabe Shino, Nishitsuji Kazuchika, Ito Yukishige, Ihara Yoshito	4. 巻 37
2. 論文標題 Monomeric C-mannosyl tryptophan is a degradation product of autophagy in cultured cells	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glycoconjugate Journal	6. 最初と最後の頁 635 ~ 645
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10719-020-09938-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maki Yuta, Okamoto Ryo, Izumi Masayuki, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 142
2. 論文標題 Chemical Synthesis of an Erythropoietin Glycoform Having a Triantennary N-Glycan: Significant Change of Biological Activity of Glycoprotein by Addition of a Small Molecular Weight Trisaccharide	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the American Chemical Society	6. 最初と最後の頁 20671 ~ 20679
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/jacs.0c08719	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuribara Taiki, Imagawa Ayami, Hirano Makoto, Ito Yukishige, Totani Kiichiro	4. 巻 594
2. 論文標題 Metabolic syndrome perturbs deglycosylation and reglycosylation in the glycoprotein folding cycle	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 FEBS Letters	6. 最初と最後の頁 1759 ~ 1769
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/1873-3468.13780	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Masayuki, Araki Hiroyuki, Tominaga Mamiko, Okamoto Ryo, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 85
2. 論文標題 Chemical Synthesis of Ubiquitinated High-Mannose-Type N-Glycoprotein CCL1 in Different Folding States	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Organic Chemistry	6. 最初と最後の頁 16024 ~ 16034
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.joc.0c01766	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwahashi Naoyuki, Inai Yoko, Minakata Shiho, Sakurai Sho, Manabe Shino, Ito Yukishige, Ino Kazuhiko, Ihara Yoshito	4. 巻 19
2. 論文標題 C?Mannosyl tryptophan increases in the plasma of patients with ovarian cancer	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Oncology Letters	6. 最初と最後の頁 908-916
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3892/ol.2019.11161	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ito Yukishige, Kajihara Yasuhiro, Takeda Yoichi	4. 巻 26
2. 論文標題 Chemical Synthesis Based Approach to Glycoprotein Functions in the Endoplasmic Reticulum	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Chemistry A European Journal	6. 最初と最後の頁 15461 ~ 15470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/chem.202004158	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inai Yoko, Ueda Kana, Matsui In-Sook Lee, Tajiri Michiko, Minakata Shiho, Wada Yoshinao, Ihara Yoshito	4. 巻 1864
2. 論文標題 Role of C-mannosylation in the secretion of mindin	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - General Subjects	6. 最初と最後の頁 129632 ~ 129632
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbagen.2020.129632	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikezaki Midori, Minakata Shiho, Nishitsuji Kazuchika, Tabata Shotaro, Lee Matsui In-Sook, Takatani Maki, Usukura Jiro, Ito Yukishige, Ihara Yoshito	4. 巻 171-172
2. 論文標題 Calreticulin protects insulin against reductive stress in vitro and in MIN6 cells	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biochimie	6. 最初と最後の頁 1 ~ 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.biochi.2020.01.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ihara Yoshito, Ikezaki Midori, Takatani Maki, Ito Yukishige	4. 巻 2132
2. 論文標題 Calnexin/Calreticulin and Assays Related to N-Glycoprotein Folding In Vitro	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Methods Mol Biol	6. 最初と最後の頁 295 ~ 308
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-1-0716-0430-4_29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Guy Adam T., Ding Feiqing, Abe Junpei, Inoue Mariko, Hirabayashi Yoshio, Ito Yukishige, Kamiguchi Hiroyuki, Greimel Peter	4. 巻 11
2. 論文標題 Lysolipid Chain Length Switches Agonistic to Antagonistic G Protein-Coupled Receptor Modulation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ACS Chemical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 3635 ~ 3645
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acscemneuro.0c00521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ding Feiqing, Ishiwata Akihiro, Zhou Siai, Zhong Xuemei, Ito Yukishige	4. 巻 85
2. 論文標題 Unified Strategy toward Stereocontrolled Assembly of Various Glucans Based on Bimodal Glycosyl Donors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Journal of Organic Chemistry	6. 最初と最後の頁 5536 ~ 5558
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.joc.0c00292	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Akiyama Hisako, Ide Mitsuko, Nagatsuka Yasuko, Sayano Tomoko, Nakanishi Etsuro, Uemura Norihito, Yuyama Kohei, Yamaguchi Yoshiki, Kamiguchi Hiroyuki, Takahashi Ryosuke, Aerts Johannes M.F.G., Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio	4. 巻 295
2. 論文標題 Glucocerebrosidases catalyze a transgalactosylation reaction that yields a newly-identified brain sterol metabolite, galactosylated cholesterol	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Biological Chemistry	6. 最初と最後の頁 5257 ~ 5277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/jbc.RA119.012502	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Abe Junpei, Guy Adam T., Ding Feiqing, Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Ito Yukishige	4. 巻 18
2. 論文標題 Systematic synthesis of novel phosphoglycolipid analogues as potential agonists of GPR55	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Organic & Biomolecular Chemistry	6. 最初と最後の頁 8467 ~ 8473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/d0ob01756f	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Totani Kiichiro, Arima Kaoru, Kuribara Taiki, Satake Yui, Hirano Makoto	4. 巻 5
2. 論文標題 Perturbation of the Relative Contribution of Molecular Chaperones in the Endoplasmic Reticulum	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ACS Omega	6. 最初と最後の頁 7399 ~ 7405
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acsomega.9b04445	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Manabe Shino, Yamaguchi Yoshiki, Matsumoto Kana, Fuchigami Hirobumi, Kawase Taiji, Hirose Kenji, Mitani Ai, Sumiyoshi Wataru, Kinoshita Takashi, Abe Junpei, Yasunaga Masahiro, Matsumura Yasuhiro, Ito Yukishige	4. 巻 30
2. 論文標題 Characterization of Antibody Products Obtained through Enzymatic and Nonenzymatic Glycosylation Reactions with a Glycan Oxazoline and Preparation of a Homogeneous Antibody-Drug Conjugate via Fc N-Glycan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bioconjugate Chemistry	6. 最初と最後の頁 1343 ~ 1355
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acs.bioconjchem.9b00132	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakagawa Yu, Doi Takashi, Takegoshi K., Sugahara Takahiro, Akase Dai, Aida Misako, Tsuzuki Kazue, Watanabe Yasunori, Tomura Tomohiko, Ojika Makoto, Igarashi Yasuhiro, Hashizume Daisuke, Ito Yukishige	4. 巻 26
2. 論文標題 Molecular Basis of Mannose Recognition by Pradimicins and their Application to Microbial Cell Surface Imaging	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cell Chemical Biology	6. 最初と最後の頁 950 ~ 959.e8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chembiol.2019.03.013	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jang Hyun Jun, Lim Seyoung, Kim Jung Min, Yoon Sora, Lee Chae Young, Hwang Hyeon Jeong, Shin Jeong Woo, Shin Kyeong Jin, Kim Hye Yun, Park Kwang Il, Nam Dougu, Lee Ja Yil, Yea Kyungmoo, Hirabayashi Yoshio, Lee Yu Jin, Chae Young Chan, Suh Pann Ghill, Choi Jang Hyun	4. 巻 34
2. 論文標題 Glucosylceramide synthase regulates adipo osteogenic differentiation through synergistic activation of PPAR with GlcCer	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The FASEB Journal	6. 最初と最後の頁 1270 ~ 1287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1096/fj.201901437R	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sano Kanae, Kuribara Taiki, Ishii Nozomi, Kuroiwa Ayumi, Yoshihara Toshitada, Tobita Seiji, Totani Kiichiro, Matsuo Ichiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Fluorescence Quenching based Assay for Measuring Golgi endo Mannosidase	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Chemistry An Asian Journal	6. 最初と最後の頁 1965 ~ 1969
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/asia.201900240	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Totani Kiichiro	4. 巻 31
2. 論文標題 Glycoprotein Quality Control Contributed by Secondary Factors	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Trends in Glycoscience and Glycotechnology	6. 最初と最後の頁 SE59 ~ SE60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4052/tigg.1928.2SE	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fermaintt Charles S., Sano Kanae, Liu Zhida, Ishii Nozomi, Seino Junichi, Dobbs Nicole, Suzuki Tadashi, Fu Yang-Xin, Lehrman Mark A., Matsuo Ichiro, Yan Nan	4. 巻 10
2. 論文標題 A bioactive mammalian disaccharide associated with autoimmunity activates STING-TBK1-dependent immune response	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 2377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41467-019-10319-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishii Nozomi, Sano Kanae, Matsuo Ichiro	4. 巻 29
2. 論文標題 Fluorogenic probe for measuring high-mannose type glycan-specific endo- -N-acetylglucosaminidase H activity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters	6. 最初と最後の頁 1643 ~ 1646
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bmcl.2019.04.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kajihara Yasuhiro	4. 巻 31
2. 論文標題 Recent Chemical Glycoprotein Syntheses	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Trends in Glycoscience and Glycotechnology	6. 最初と最後の頁 SE25 ~ SE27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4052/tigg.1912.2SE	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi Yoshiki, Barb Adam W	4. 巻 30
2. 論文標題 A synopsis of recent developments defining how N-glycosylation impacts immunoglobulin G structure and function	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glycobiology	6. 最初と最後の頁 214 ~ 225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/glycob/cwz068	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ohno Rei-ichi, Ichimaru Kenta, Tanaka Seitaro, Sugawa Hikari, Katsuta Nana, Sakake Shiori, Tominaga Yu-ki, Ban Ikuho, Shirakawa Jun-ichi, Yamaguchi Yoshiki, Ito Emi, Taniguchi Naoyuki, Nagai Ryoji	4. 巻 294
2. 論文標題 Glucoselysine is derived from fructose and accumulates in the eye lens of diabetic rats	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Biological Chemistry	6. 最初と最後の頁 17326 ~ 17338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/jbc.RA119.010744	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manabe Yoshiyuki, Marchetti Roberta, Takakura Yohei, Nagasaki Masahiro, Nihei Wataru, Takebe Tomoyuki, Tanaka Katsunori, Kabayama Kazuya, Chiodo Fabrizio, Hanashima Shinya, Kamada Yoshihiro, Miyoshi Eiji, Dulal Hari Prasad, Yamaguchi Yoshiki, et al.	4. 巻 58
2. 論文標題 The Core Fucose on an IgG Antibody is an Endogenous Ligand of Dectin 1	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Angewandte Chemie International Edition	6. 最初と最後の頁 18697 ~ 18702
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/anie.201911875	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakano Miyako, Mishra Sushil K., Tokoro Yuko, Sato Keiko, Nakajima Kazuki, Yamaguchi Yoshiki, Taniguchi Naoyuki, Kizuka Yasuhiko	4. 巻 18
2. 論文標題 Bisecting GlcNAc Is a General Suppressor of Terminal Modification of N-glycan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Molecular & Cellular Proteomics	6. 最初と最後の頁 2044 ~ 2057
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/mcp.RA119.001534	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakono Naomi, Nakamura Kosuke, Ohshima Tatsuki, Hayakawa Ryoto, Sakono Masafumi	4. 巻 35
2. 論文標題 Tyrosinase-mediated Peptide Conjugation with Chitosan-coated Gold Nanoparticles	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Analytical Sciences	6. 最初と最後の頁 79 ~ 83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2116/analsci.18SDP03	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口芳樹	4. 巻 269
2. 論文標題 レクチンの糖鎖認識とは	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 750-755
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakurai Sho, Inai Yoko, Minakata Shiho, Manabe Shino, Ito Yukishige, Ihara Yoshito	4. 巻 9
2. 論文標題 A novel assay for detection and quantification of C-mannosyl tryptophan in normal or diabetic mice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 4675
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-41278-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Rina, Tainaka Reina, Ando Yuichi, Hashi Yurika, Deepak Hadya V., Suga Yoshiko, Murai Yuta, Anetai Masaki, Monde Kenji, Ohta Kiminori, Ito Ikuko, Kikuchi Haruhisa, Oshima Yoshiteru, Endo Yasuyuki, Nakao Hitomi, Sakono Masafumi, Uwai Koji, Tokuraku Kiyotaka	4. 巻 9
2. 論文標題 An automated microliter-scale high-throughput screening system (MSHTS) for real-time monitoring of protein aggregation using quantum-dot nanoprobe	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 2587
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-019-38958-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Fujimori Tae, Matsuda Ryoko, Suzuki Mami, Takenaka Yuto, Kajiura Hiroyuki, Takeda Yoichi, Ishimizu Takeshi	4. 巻 477
2. 論文標題 Practical preparation of UDP-apiose and its applications for studying apiosyltransferase	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Carbohydrate Research	6. 最初と最後の頁 20 ~ 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carres.2019.03.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Iwahashi Naoyuki, Ikezaki Midori, Matsuzaki Ibu, Yamamoto Madoka, Toujima Saori, Murata Shin-ichi, Ihara Yoshito, Ino Kazuhiko	4. 巻 160
2. 論文標題 Calreticulin regulates syncytialization through control of the synthesis and transportation of E-cadherin in BeWo cells	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Endocrinology	6. 最初と最後の頁 359 ~ 374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1210/en.2018-00868	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Guy Adam T., Kano Koki, Ohyama Jyunpei, Kamiguchi Hiroyuki, Hirabayashi Yoshio, Ito Yukishige, Matsuo Ichiro, Greimel Peter	4. 巻 10
2. 論文標題 Preference for Glucose over Inositol Headgroup during Lysolipid Activation of G Protein-Coupled Receptor 55	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ACS Chemical Neuroscience	6. 最初と最後の頁 716 ~ 727
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/acchemneuro.8b00505	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kiuchi Tatsuto, Izumi Masayuki, Mukogawa Yuki, Shimada Arisa, Okamoto Ryo, Seko Akira, Sakono Masafumi, Takeda Yoichi, Ito Yukishige, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 140
2. 論文標題 Monitoring of Glycoprotein Quality Control System with a Series of Chemically Synthesized Homogeneous Native and Misfolded Glycoproteins	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the American Chemical Society	6. 最初と最後の頁 17499 ~ 17507
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/jacs.8b08653	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Unverzagt Carlo, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 46
2. 論文標題 Recent advances in the chemical synthesis of N-linked glycoproteins	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Current Opinion in Chemical Biology	6. 最初と最後の頁 130 ~ 137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.cbpa.2018.07.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takenaka Yuto, Kato Kohei, Ogawa-Ohnishi Mari, Tsuruhama Kana, Kajiura Hiroyuki, Yagy Kenta, Takeda Atsushi, Takeda Yoichi, Kunieda Tadashi, Hara-Nishimura Ikuko, Kuroha Takeshi, Nishitani Kazuhiko, Matsubayashi Yoshikatsu, Ishimizu Takeshi	4. 巻 4
2. 論文標題 Pectin RG-I rhamnosyltransferases represent a novel plant-specific glycosyltransferase family	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nature Plants	6. 最初と最後の頁 669 ~ 676
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41477-018-0217-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ding Feiqing, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige	4. 巻 20
2. 論文標題 Bimodal Glycosyl Donors Protected by 2-O-(ortho-Tosylamido)benzyl Group	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Organic Letters	6. 最初と最後の頁 4384 ~ 4388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/ACS.ORGLETT.8B01922	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ding Feiqing, Guy Adam T., Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Ito Yukishige	4. 巻 54
2. 論文標題 Squaryl group modified phosphoglycolipid analogs as potential modulators of GPR55	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Chemical Communications	6. 最初と最後の頁 8470 ~ 8473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/C8CC04467H	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ding Feiqing, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige	4. 巻 20
2. 論文標題 Stereodivergent Mannosylation Using 2-O-(ortho-Tosylamido)benzyl Group	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Organic Letters	6. 最初と最後の頁 4833 ~ 4837
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/ACS.ORGLETT.8B01979	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagae Masamichi, Kizuka Yasuhiko, Mihara Emiko, Kitago Yu, Hanashima Shinya, Ito Yukishige, Takagi Junichi, Taniguchi Naoyuki, Yamaguchi Yoshiki	4. 巻 9
2. 論文標題 Structure and mechanism of cancer-associated N-acetylglucosaminyltransferase-V	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nature Communications	6. 最初と最後の頁 3380
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/S41467-018-05931-W	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Manabe Shino, Yamaguchi Yoshiki, Abe Junpei, Matsumoto Kana, Ito Yukishige	4. 巻 5
2. 論文標題 Acceptor range of endo- α -N-acetylglucosaminidase mutant endo-CC N180H: from monosaccharide to antibody	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 171521 ~ 171521
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/RSOS.171521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hossain Tanim J., Manabe Shino, Ito Yukishige, Iida Toshiya, Kosono Saori, Ueda Kenji, Hosomi Akira, Inoue Daishi, Suzuki Tadashi	4. 巻 35
2. 論文標題 Enrichment and characterization of a bacterial mixture capable of utilizing C-mannosyl tryptophan as a carbon source	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Glycoconjugate Journal	6. 最初と最後の頁 165 ~ 176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/S10719-017-9807-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishibashi Yohei, Ito Makoto, Hirabayashi Yoshio	4. 巻 499
2. 論文標題 Regulation of glucosylceramide synthesis by Golgi-localized phosphoinositide	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 1011 ~ 1018
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2018.04.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Kazuki, Kizuka Yasuhiko, Yamaguchi Yoshiki, Hirabayashi Yoshio, Takahashi Kazuo, Yuzawa Yukio, Taniguchi Naoyuki	4. 巻 495
2. 論文標題 Identification and characterization of UDP-mannose in human cell lines and mouse organs: Differential distribution across brain regions and organs	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 401 ~ 407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2017.10.173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井原義人	4. 巻 69
2. 論文標題 細胞膜での分子修飾 - C-マンノシル化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生体の科学 タンパク質・核酸の分子修飾 (医学書院)	6. 最初と最後の頁 500-501
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Nozomi, Sunaga Chie, Sano Kanae, Huang Chengcheng, Iino Kenta, Matsuzaki Yuji, Suzuki Tadashi, Matsuo Ichiro	4. 巻 19
2. 論文標題 A New Fluorogenic Probe for the Detection of endo- α -N-Acetylglucosaminidase	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ChemBioChem	6. 最初と最後の頁 660 ~ 663
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cbic.201700662	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Nozomi, Ogiwara Ken, Sano Kanae, Kumada Jyunichi, Yamamoto Kenji, Matsuzaki Yuji, Matsuo Ichiro	4. 巻 19
2. 論文標題 Specificity of Donor Structures for endo α -N Acetylglucosaminidase Catalyzed Transglycosylation Reactions	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ChemBioChem	6. 最初と最後の頁 136 ~ 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cbic.201700506	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Calles-Garcia Daniel, Yang Meng, Soya Naoto, Melero Roberto, Menade Marie, Ito Yukishige, Vargas Javier, Lukacs Gergely L., Kollman Justin M., Kozlov Guennadi, Gehring Kalle	4. 巻 292
2. 論文標題 Single-particle electron microscopy structure of UDP-glucose:glycoprotein glucosyltransferase suggests a selectivity mechanism for misfolded proteins	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Biological Chemistry	6. 最初と最後の頁 11499 ~ 11507
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1074/jbc.M117.789495	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kuribara Taiki, Hirano Makoto, Speciale Gaetano, Williams Spencer J., Ito Yukishige, Totani Kiichiro	4. 巻 18
2. 論文標題 Selective Manipulation of Discrete Mannosidase Activities in the Endoplasmic Reticulum by Using Reciprocally Selective Inhibitors	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ChemBioChem	6. 最初と最後の頁 1027 ~ 1035
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cbic.201700081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Iwamoto Shogo, Kasahara Yuta, Yoshimura Yayoi, Seko Akira, Takeda Yoichi, Ito Yukishige, Totani Kiichiro, Matsuo Ichiro	4. 巻 18
2. 論文標題 Endo- -mannosidase catalyzed transglycosylation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ChemBioChem	6. 最初と最後の頁 1376-1378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cbic.201700111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuribara Taiki, Ishihara Toshihiro, Kudo Takaya, Hirano Makoto, Totani Kiichiro	4. 巻 24
2. 論文標題 Peptide Specificity Analysis of Peptide: N-glycanases Using Synthetic Chitobiose-pentapeptides	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Protein & Peptide Letters	6. 最初と最後の頁 723-728
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/0929866524666170818160159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okuyama Masayuki, Miyamoto Masashi, Matsuo Ichiro, Iwamoto Shogo, Serizawa Ryo, Tanuma Masanari, Ma Min, Klahan Patcharapa, Kumagai Yuya, Tagami Takayoshi, Kimura Atsuo	4. 巻 81
2. 論文標題 Substrate recognition of the catalytic -subunit of glucosidase II from Schizosaccharomyces pombe	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biosci Biotechnol Biochem.	6. 最初と最後の頁 1503-1511
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/09168451.2017.1320520	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto Madoka, Ikezaki Midori, Toujima Saori, Iwahashi Naoyuki, Mizoguchi Mika, Nanjo Sakiko, Minami Sawako, Ihara Yoshito, Ino Kazuhiko	4. 巻 158
2. 論文標題 Calreticulin Is Involved in Invasion of Human Extravillous Trophoblasts Through Functional Regulation of Integrin 1	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Endocrinology	6. 最初と最後の頁 3874 ~ 3889
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1210/en.2016-1966	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Masayuki, Kuruma Rie, Okamoto Ryo, Seko Akira, Ito Yukishige, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 139
2. 論文標題 Substrate Recognition of Glycoprotein Folding Sensor UGGT Analyzed by Site-Specifically 15N-Labeled Glycopeptide and Small Glycopeptide Library Prepared by Parallel Native Chemical Ligation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the American Chemical Society	6. 最初と最後の頁 11421 ~ 11426
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1021/jacs.7b03277	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakao Hitomi, Seko Akira, Ito Yukishige, Sakono Masafumia	4. 巻 487
2. 論文標題 PDI family protein ERp29 recognizes P-domain of molecular chaperone calnexin	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 763 ~ 767
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2017.04.139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama Hisako, Hirabayashi Yoshio	4. 巻 1861
2. 論文標題 A novel function for glucocerebrosidase as a regulator of sterylglucoside metabolism	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Biochimica et Biophysica Acta (BBA) - General Subjects	6. 最初と最後の頁 2507 ~ 2514
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbagen.2017.06.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Totani Kiichiro, Yamaya Kenta, Hirano Makoto, Ito Yukishige	4. 巻 439
2. 論文標題 Influence of aglycone structures on N-glycan processing reactions in the endoplasmic reticulum	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Carbohydrate Research	6. 最初と最後の頁 16 ~ 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carres.2016.12.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeda Yoichi, Seko Akira, Fujikawa Kohki, Izumi Masayuki, Kajihara Yasuhiro, Ito Yukishige	4. 巻 26
2. 論文標題 Effects of domain composition on catalytic activity of human UDP-glucose:glycoprotein glucosyltransferases	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Glycobiology	6. 最初と最後の頁 999-1006
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/glycob/cww069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wang Ning, Seko Akira, Daikoku Shusaku, Kanie Osamu, Takeda Yoichi, Ito Yukishige	4. 巻 436
2. 論文標題 Non-enzymatic reaction of glycosyl oxazoline with peptides	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Carbohydrate Research	6. 最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carres.2016.11.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sakono Masafumi, Seko Akira, Takeda Yoichi, Hachisu Masakazu, Koizumi Akihiko, Fujikawa Kohki, Seto Hideharu, Ito Yukishige	4. 巻 6
2. 論文標題 Influence of high-mannose glycan whose glucose moiety is substituted with 5-thioglucose on calnexin/calreticulin cycle	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 RSC Advances	6. 最初と最後の頁 76879 ~ 76882
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/C6RA16476E	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Son Sang-Hyun, Seko Akira, Daikoku Shusaku, Fujikawa Kohki, Suzuki Katsuhiko, Ito Yukishige, Kanie Osamu	4. 巻 17
2. 論文標題 Endoplasmic Reticulum (ER)-Targeted, Galectin-Mediated Retrograde Transport by Using a HaloTag Carrier Protein	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ChemBioChem	6. 最初と最後の頁 630 ~ 639
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cbic.201500489	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hachisu Masakazu, Seko Akira, Daikoku Shusaku, Takeda Yoichi, Sakono Masafumi, Ito Yukishige	4. 巻 17
2. 論文標題 Hydrophobic Tagged Dihydrofolate Reductase for Creating Misfolded Glycoprotein Mimetics	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ChemBioChem	6. 最初と最後の頁 300 ~ 303
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cbic.201500595	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirano Makoto, Imagawa Ayami, Totani Kiichiro	4. 巻 478
2. 論文標題 Stratified analysis of lectin-like chaperones in the folding disease-related metabolic syndrome rat model	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 247 ~ 253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2016.07.060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikezaki Midori, Higashimoto Natsuki, Matsumura Ko, Ihara Yoshito	4. 巻 477
2. 論文標題 Hsc70 facilitates TGF- β -induced activation of Smad2/3 in fibroblastic NRK-49F cells	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Biochemical and Biophysical Research Communications	6. 最初と最後の頁 448 ~ 453
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.bbrc.2016.06.079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dedola Simone, Izumi Masayuki, Makimura Yutaka, Seko Akira, Kanamori Akiko, Takeda Yoichi, Ito Yukishige, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 434
2. 論文標題 Direct assay for endo- α -mannosidase substrate preference on correctly folded and misfolded model glycoproteins	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Carbohydrate Research	6. 最初と最後の頁 94 ~ 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carres.2016.08.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dedola Simone, Izumi Masayuki, Makimura Yutaka, Ito Yukishige, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 106
2. 論文標題 Evaluation of the effect of post-translational modification toward protein structure: Chemical synthesis of glycosyl crambins having either a high mannose-type or a complex-type oligosaccharide	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Biopolymers	6. 最初と最後の頁 446 ~ 452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/bip.22784	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Masayuki, Komaki Shinji, Okamoto Ryo, Seko Akira, Takeda Yoichi, Ito Yukishige, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Synthesis of misfolded glycoprotein dimers through native chemical ligation of a dimeric peptide thioester	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Organic & Biomolecular Chemistry	6. 最初と最後の頁 6088 ~ 6094
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1039/C6OB00928J	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Izumi Masayuki, Oka Yukiho, Okamoto Ryo, Seko Akira, Takeda Yoichi, Ito Yukishige, Kajihara Yasuhiro	4. 巻 55
2. 論文標題 Synthesis of Glc1Man9-Glycoprotein Probes by a Misfolding/Enzymatic Glucosylation/Misfolding Sequence	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Angewandte Chemie International Edition	6. 最初と最後の頁 3968 ~ 3971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/anie.201511491	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakajima Kazuki, Akiyama Hisako, Tanaka Kaori, Kohyama-Koganeya Ayako, Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio	4. 巻 1031
2. 論文標題 Separation and analysis of mono-glucosylated lipids in brain and skin by hydrophilic interaction chromatography based on carbohydrate and lipid moiety	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Chromatography B	6. 最初と最後の頁 146 ~ 153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jchromb.2016.07.047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama Hisako, Nakajima Kazuki, Itoh Yoshiyuki, Sayano Tomoko, Ohashi Yoko, Yamaguchi Yoshiki, Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio	4. 巻 57
2. 論文標題 Aglycon diversity of brain sterylglucosides: structure determination of cholesteryl- and sitosterylglucoside	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Lipid Research	6. 最初と最後の頁 2061 ~ 2072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1194/jlr.M071480	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Marques Andre R.A., Mirzaian Mina, Akiyama Hisako, et al.	4. 巻 57
2. 論文標題 Glucosylated cholesterol in mammalian cells and tissues: formation and degradation by multiple cellular -glucosidases	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Lipid Research	6. 最初と最後の頁 451 ~ 463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1194/jlr.M064923	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

[学会発表] 計386件 (うち招待講演 67件 / うち国際学会 102件)

1. 発表者名 阿部 純平、Adam T. Guy、Feiqin Ding、Greimel Peter、平林 義雄、上口 裕之、伊藤 幸成
2. 発表標題 スクアリル基修飾型糖によるGPR55リガンド開発
3. 学会等名 日本薬学会第142年会 (オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西尾譲一郎、武田陽一、菊間隆志
2. 発表標題 麹菌Aspergillus oryzaeにおける推定新規選択的オートファジー関連タンパク質の機能解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2022 年度大会 (オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青木涼馬、菊間隆志、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 人工糖鎖基質を用いたEDEM2の基質特異性の検討
3. 学会等名 日本農芸化学会2022 年度大会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐野加苗、菊間隆志、高橋諭、石井希実、松尾一郎、武田陽一
2. 発表標題 ドリコールピロリン酸結合型糖鎖を追跡する膜反応場の構築を目指したUDP-GlcNAcプローブの合成
3. 学会等名 日本農芸化学会2022 年度大会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上嶋里菜、戸田奈穂子、Greimel Peter、菊間隆志、武田陽一
2. 発表標題 Phosphatidyl- α -D-glucosideの生合成反応を追跡可能な分子プローブの合成
3. 学会等名 日本化学会第102春季年会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平木勲、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 Ces1d多量体の形態変化がもたらす小胞体エンドマンノシダーゼ活性の変動
3. 学会等名 日本化学会第102春季年会（オンライン）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 喜多正樹, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 2型糖尿病モデルラット小胞体を用いた糖鎖プロファイルの再構成
3. 学会等名 日本化学会第102春季年会(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平啓人, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 Ces1dが関与するエンドグリコシダーゼ活性に対するハイブリッド結合型プローブの合成研究
3. 学会等名 日本化学会第102春季年会(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 猪飼将太郎, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 Golgi endo- α -mannosidaseに対する結合リガンドの合成
3. 学会等名 日本化学会第102春季年会(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ihara Yoshito
2. 発表標題 Protein C-mannosylation: Its predicted implications in human diseases
3. 学会等名 Wakayama Medical University International Symposium on Japan-France Glycopathophysiology (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ishiwata Akihiro
2. 発表標題 Synthesis of L-arabinofuranoside derivatives for the analysis of novel -L-arabinofuranosidases and its homologues
3. 学会等名 Asian Carbohydrate Chemistry and Glycobiology Webinar (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Chemical synthesis for delineating biological functions of glycoconjugates
3. 学会等名 ACS Fall 2021 National Meeting (Atlanta) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Synthetic studies toward functions of glucose modified glycoconjugates in the ER
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Chemical Synthesis toward Biological Functions of Glycoconjugates
3. 学会等名 Bilateral Symposium Osaka University and Academia Sinica (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名	Abe Junpeu, Guy Adam T., Ding Fieqing, Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Ito Yukishige
2. 発表標題	Squaryl Group Modified Lysophosphatidyl- -D-glucoside Analogues as Potential Ligands of GPR55
3. 学会等名	Pacificchem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Higashi Sayaka, Matoba Takahiro, Kikuma Takashi, Ito Yukishige, Takeda Yoichi
2. 発表標題	Selenoprotein F recognition of endoplasmic reticulum glucosyltransferase analyzed using a His-tag specifically introduced photoreactive crosslinker
3. 学会等名	Pacificchem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Ueshima Rina, Toda Nahoko, Greimel Peter, Kikuma Takashi, Takeda Yoichi
2. 発表標題	Synthesis of molecular probes to understand a biosynthetic mechanism of Lyso-phosphatidyl- -D-glucoside
3. 学会等名	Pacificchem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名	Hashiguchi Yuji, Tada Sato, Ito Yukishige, Takeda Yoichi, Kikuma Takashi
2. 発表標題	Analysis of 1,2-mannosidase in <i>Saccharomyces cerevisiae</i> by gene disruption
3. 学会等名	Pacificchem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年	2021年

1. 発表者名 Mera Yuki, Kikuma Takashi, Takeda Yoichi
2. 発表標題 Synthesis of a caged CMP-3-deoxy-D-manno-octulosonic acid (CMP-Kdo) derivative as a substrate for Kdo transferases
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kuribara Taiki, Hirano Makoto, Williams Spencer J., Fujita Morihisa, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Exploring of novel endo- α -mannosidase in the endoplasmic reticulum
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Usui Ruchio, Kabasawa Megumi, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Development of high-mannose glycan library synthesized by dendritic glycosylation
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hirukawa Tatsuya, Usui Ruchio, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Effective synthesis of branch structure of various high-mannose glycans
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kabasawa Megumi, Usui Ruchio, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Synthetic non-natural high-mannose glycan for understanding effect of glycan conformation on glycan recognition in vivo
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kojima Taiga, Shibayama Keita, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Detection of intracellular calreticulin using a fluorescently labeled probe
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Saito Naoki, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Synthetic study of glycopeptide probes toward activity detection of ENGase and PNGase
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nishiwaki Midori, Takahashi Sho, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Synthetic study of fluorogenic substrate for detecting endo- α -mannosidase activity in the endoplasmic reticulum
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Koyama Risa, Nitta Kyohei, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Synthetic study of thioglycoside-type selective inhibitors for α -1,2-mannosidase in the endoplasmic reticulum
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishii Ryota, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Competitive analysis of UGGT1 and α -1,2-mannosidases using homogeneous glycoprotein
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kamikawara Yuki, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Verification of the involvement of candidate protein in novel endomannosidase activity
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kano Koki, Kuroiwa Ayumi, Sano Kanae, Ishii Nozomi, Greimel Peter, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Synthesis of Lyso-phosphatidyl- α -D-Glucoside
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishii Nozomi, Sato Itsuki, Takahashi Satoshi, Sano Kanae, Nagata Mitsuo, Takagaki Tomomichi, Matsuolchiro
2. 発表標題 FRET-based glycan probes for evaluation of ENGases activity
3. 学会等名 Pacifichem 2021 (Online) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部 純平、Guy Adam、Ding Feiqing、Greimel Peter、平林 義雄、上口 裕之、伊藤 幸成
2. 発表標題 スクアリル基修飾型糖によるGPR55リガンド開発とUGGTリガンド候補分子の合成
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会 (鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 洪慧馨、池田和貴、上口裕之、平林義雄
2. 発表標題 UGGT2-driven glucosylation yielding phosphatidylglucoside is protective during hypoxic stress
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会 (鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上嶋里菜, 戸田奈穂子, Peter Greimel, 菊間隆志, 武田陽一
2. 発表標題 Phosphatidyl- α -D-glucosideの生合成機構を解明するための分子プローブの合成
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会 (鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐野加苗、菊間隆志、高橋諭、石井希実、松尾一郎、武田陽一
2. 発表標題 フリップフロップ反応場の構築を目指した DPAGT1 基質の合成
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会（鹿児島）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 碓井瑠智雄，樺澤恵，栗原大輝，戸谷希一郎
2. 発表標題 樹状型グリコシル化法による高マンノース型糖鎖ライブラリーの構築研究
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会（鹿児島）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 戸谷希一郎，新田恭平，栗原大輝
2. 発表標題 小胞体のexo-作用型 -1,2-Mannosidase群はendo-グリコシド結合様式を識別する
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会（鹿児島）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 粕谷未夢，栗原大輝，戸谷希一郎
2. 発表標題 アルツハイマー病モデルマウス小胞体の糖鎖プロファイル再構成
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会（鹿児島）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上川原有紀, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 新規エンドマンノシダーゼ活性における候補タンパク質の関与の証明
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 児島大河, 柴山佳大, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 細胞内カルレティキュリン特異的な蛍光プローブの合成研究
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗原大輝, 平野真, Williams Spencer J., 藤田盛久, 伊藤幸成, 戸谷希一郎
2. 発表標題 化学的アプローチに立脚した新規小胞体エンドマンノシダーゼの探索
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 喜多正樹, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 2型糖尿病モデルラット小胞体を用いた再構成糖鎖プロファイルの獲得
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 比留川達也, 碓井瑠智雄, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 高マンノース型糖鎖の合成を志向した効率的な合成アプローチ
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平木勲, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 糖尿病モデルラットにおける小胞体エンドマンノシダーゼ活性とCes1d発現の相関解析
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樺澤恵, 碓井瑠智雄, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 樹状型グリコシル化反応を利用した非天然高マンノース型糖鎖の合成研究
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西脇みどり, 高橋翔, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体エンド- α -マンノシダーゼ活性を検出する発蛍光性基質の合成研究
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤直暉, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 ENGaseおよびPNGaseに対する活性検出用糖鎖プローブの合成
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井涼太, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 糖タンパク質品質管理機構の解析に資する均一な糖鎖をもつ糖タンパク質の創製
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ママヒット・ユゴヴィアンディ・プリマンダ, 真木勇太, 岡本亮, 梶原康宏
2. 発表標題 ミスフォールド型糖タンパク質 IL-8 の半合成研究
3. 学会等名 第40回日本糖質学会年会(鹿児島)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部 純平、Guy Adam、Ding Feiqing、Greimel Peter、平林 義雄、上口 裕之、伊藤 幸成
2. 発表標題 新規なGPR55リガンドの開発に向けたスクアリル基修飾型糖脂質類縁体の系統的合成
3. 学会等名 日本化学会第101春季年会(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西脇みどり, 高橋翔, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体内エンド- α -マンノシダーゼ活性を検出する発蛍光性基質の合成研究
3. 学会等名 日本化学会第101春季年会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 碓井瑠智雄, 樺澤恵, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 樹状型グリコシル化法を利用した高マンノース型糖鎖ライブラリーの構築研究
3. 学会等名 日本化学会第101春季年会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 比留川達也, 碓井瑠智雄, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 多様な糖供与体を用いた樹状型グリコシル化法による高マンノース糖鎖の合成研究
3. 学会等名 日本化学会第101春季年会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 栗原大輝, 児島大河, 柴山佳大, 武田陽一, 戸谷希一郎
2. 発表標題 ハイブリッド結合に基づくカルレティキュリン阻害剤の開発
3. 学会等名 日本化学会第101春季年会 (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤 泉、大谷 結子、向川 友紀、山内 美紀、和泉 雅之、真木 勇太、岡本 亮、伊藤 幸成、梶原 康宏
2. 発表標題 フォールディングセンサー酵素の阻害剤を用いる糖タンパク質品質管理機構の追跡
3. 学会等名 日本化学会第101春季年会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西尾謙一郎、尾崎愛奈、島田侑希、武田陽一、菊間隆志
2. 発表標題 麹菌 <i>Aspergillus oryzae</i> における選択的オートファジーレセプターの探索
3. 学会等名 日本農芸化学会2021 年度大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松尾一郎、佐野加苗、石井希実、黒岩歩実、森口朋尚、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 ピレン修飾オリゴ糖を用いたEndo- α -mannosidase活性検出
3. 学会等名 日本農芸化学会2021 年度大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井希実、永田光穂、高垣智迪、佐野加苗、高橋諭、佐藤樹、松尾一郎
2. 発表標題 コアフコース含有2分岐複合型糖鎖10糖プローブの合成
3. 学会等名 日本農芸化学会2021 年度大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井内陽子、南方志保、井邊公章、奥陵佑、小西朋樹、塚本洸士、眞鍋史乃、木下タロウ、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 Spondin-2の生合成系とC-マンノシルトリプトファン産生
3. 学会等名 第94回日本生化学会大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池崎みどり、西辻和親、眞鍋史乃、内村健治、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 C-マンノシル化WSPWペプチドはTGF- β シグナル抑制を介してアストロサイト培養上清によるシナプス形成を阻害する
3. 学会等名 第94回日本生化学会大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松川仁登美、池崎みどり、岩橋尚幸、山本円、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 胎盤形成不全におけるカルネキシン発現抑制と -hCG発現・分泌抑制機序について
3. 学会等名 第94回日本生化学会大会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松川仁登美、池崎みどり、岩橋尚幸、山本円、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 カルネキシンは -hCG 発現誘導に寄与する：胎盤形成との関連
3. 学会等名 第67回日本生化学会近畿支部例会（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石渡明弘
2. 発表標題 アラビノフラノシド誘導体の化学合成とアラビナン分解酵素解析への応用
3. 学会等名 第18回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム(オンライン)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ishiwata Akihiro
2. 発表標題 Synthesis and structural analysis of glycans and glycoconjugates as the substrate for glycan-related bacterial enzymes
3. 学会等名 13rd Glyco-lipidologue seminar (Wako, Japan)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 洪慧馨、池田和貴、上口裕之、平林義雄
2. 発表標題 The mechanism and function of UGGT-mediated biosynthesis of phosphatidylglucoside, a lipid component associated with hypoxic stress
3. 学会等名 第63回 日本脂質生化学会大会(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Abe Junpei, Guy Adam T., Ding Feiqing, Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Ito Yukishige
2. 発表標題 Development of Squaryl Group Modified Sugar Analogs as Potential Regulators of GPR55
3. 学会等名 AIMECS 2021 (Online)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平林義雄
2. 発表標題 脂質の糖化反応と細胞ストレス
3. 学会等名 大阪大学タンパク質研究所セミナー “ 生体膜上の生物化学 ” (オンライン) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 児島大河, 柴山佳大, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 細胞内カルレティキュリン特異的な蛍光プローブの合成研究
3. 学会等名 GlycoTOKYO2021シンポジウム (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 古山りさ, 新田恭平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体 -1,2-マンノシダーゼ類のブランチ識別能に立脚した選択的チオグリコシド型阻害剤の合成研究
3. 学会等名 GlycoTOKYO2021シンポジウム (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平木勲, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 糖尿病モデルラットにおける小胞体エンドマンノシダーゼ活性とCes1d発現の相関解析
3. 学会等名 GlycoTOKYO2021シンポジウム (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 喜多正樹, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 2型糖尿病モデルラット小胞体を用いた再構成糖鎖プロファイルの獲得
3. 学会等名 GlycoTOKYO2021シンポジウム (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西尾謙一郎, 尾崎愛奈, 島田侑希, 武田陽一, 菊間隆志
2. 発表標題 麹菌Aspergillus oryzaeにおけるヌクレオファジーレセプター候補遺伝子破壊株の解析
3. 学会等名 第8回糸状菌若手の会ワークショップ (オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中尾 仁美, 瀬古 玲, 伊藤 幸成, 迫野 昌文
2. 発表標題 ERp29介在型calnexinダイマーのシャペロン機能に関する検討
3. 学会等名 第93回日本生化学大会 (オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山崎 良太, 迫野 昌文
2. 発表標題 精巢内在分子シャペロンとPDI関連タンパク質の相互作用に関する検討
3. 学会等名 第93回日本生化学大会 (オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 阿部 純平、Guy Adam T.、Ding Feiqing、Greimel Peter、平林 義雄、上口 裕之、伊藤 幸成
2. 発表標題 スクアリル修飾型リゾホスファチジルグルコシド類縁体によるGPR55リガンド開発
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井原義人、森田修平、井内陽子、南方志帆、岸本祥平、眞鍋志乃、伊藤幸成、赤水尚史
2. 発表標題 糖尿病合併症と血清C-マンノシル-トリプトファン
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樺澤 恵，碓井瑠智雄，栗原大輝，戸谷希一郎
2. 発表標題 非天然高マンノース型糖鎖合成に向けたコアオリゴ糖の合成研究
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北條真琴，栗原大輝，戸谷希一郎
2. 発表標題 カルレティキュリンのリガンドとなる高マンノース型糖鎖Aブランチ四糖の合成
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 児島大河, 柴山佳大, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 保護基の性質を活用したカルレティキュリン結合三糖の効率的合成研究
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古山りさ, 新田恭平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体 α -1,2-マンノシダーゼ類に対するチオグリコシド型選択的阻害剤の合成研究
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤直暉, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 ENGaseおよびPNGaseIに対する活性検出用糖鎖プローブの合成研究
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井涼太, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 フォールディング センサー酵素の解析に資する均一な糖鎖をもつ糖タンパク質の創製研究
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗原大輝, 平野真, 藤田盛久, 戸谷希一郎
2. 発表標題 ゴルジエンド-1,2-マンノシダーゼとカルボキシルエステラーゼの関連性の探索
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高垣智迪, 永田光穂, 佐野加苗, 石井希実, 松尾一郎
2. 発表標題 水酸基の反転反応を利用した二本鎖複合型糖鎖9糖誘導体の合成
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野加苗, 黒岩歩実, 石井希実, 松尾一郎
2. 発表標題 ピレンエキシマー蛍光を利用したGolgi endo-mannosidaseの活性検出プローブの合成
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤泉, 大谷結子, 向川友紀, 山内美紀和泉雅之, 真木勇太, 岡本亮, 伊藤幸成, 梶原康宏
2. 発表標題 UDP-5-S-Glucoseを利用した糖タンパク質品質管理機構の追跡
3. 学会等名 第39回日本糖質学会年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 碓井瑠智雄, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 樹状型グリコシル化法を利用した高マンノース型糖鎖ライブラリーの構築研究
3. 学会等名 第10回CSJ化学フェスタ(オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古山りさ, 新田恭平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体 α -1,2-マンノシダーゼ類のブランチ識別能に立脚したチオグリコシド型選択的阻害剤の合成研究
3. 学会等名 第10回CSJ化学フェスタ(オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井涼太, 川瀬浩平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 フォールディング センサー酵素の解析に資する均一な糖鎖をもつ糖タンパク質プローブの創製研究
3. 学会等名 第10回CSJ化学フェスタ(オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北條真琴, 柴山佳大, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 細胞表面カルレティキュリン に対する蛍光標識化合物の合成研究
3. 学会等名 第10回CSJ化学フェスタ(オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 碓井瑠智雄, 新田恭平, 小泉亮, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 樹状型グリコシル化法を利用した多様な高マンノース型糖鎖の合成研究
3. 学会等名 日本化学会第100春季年会(誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石井涼太, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 フォールディングセンサー酵素の解析に資する均一な糖鎖をもつ糖タンパク質プローブの創製研究
3. 学会等名 日本化学会第100春季年会(誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北條真琴, 柴山佳大, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 細胞表面カルレティキュリン特異的な傾向標識化合物の合成研究
3. 学会等名 日本化学会第100春季年会(誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kuribara Taiki, Shibayama Keita, Hirano Makoto, Adachi Yuka, Takeda Yoichi, Ito Yukishige, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Development of hybrid binding inhibitor for calreticulin
3. 学会等名 日本化学会第100春季年会(誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mera Yuki, Kikuma Takashi, Takeda Yoichi
2. 発表標題 Synthesis of CMP-KDO and its derivatives
3. 学会等名 日本化学会第100春季年会(誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤泉、大谷結子、向川友紀、山内美紀、和泉雅之、真木勇太、岡本亮、伊藤幸成、梶原康宏
2. 発表標題 UDP-5-S-Glucoseを利用した糖タンパク質品質管理機構の追跡
3. 学会等名 日本化学会第100春季年会(誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Synthesis of N-glycans based on the regioselective glycosylation and simultaneous inversion reaction of stereochemistry of hydroxyl groups
3. 学会等名 International Symposium on Glyco-lipidologue, Wako, Japan (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kano Koki, Greimel Peter, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Evaluation of the acyl-migration reaction of lyso-phosphatidyl- α -D-glucoside
3. 学会等名 International Symposium on Glyco-lipidologue (Wako, Japan)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松尾 一郎、佐野 加苗、永田 光穂、高垣 智迪
2. 発表標題 位置選択的グリコシル化と水酸基の立体反転を基軸としたアスパラギン結合型糖鎖の合成
3. 学会等名 2020年日本農芸化学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋慶晃、武田陽一、菊間隆志
2. 発表標題 麹菌 <i>A. oryzae</i> におけるオートファジーによる核の分解（ヌクレオファジー）の解析
3. 学会等名 2020年日本農芸化学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 垣原真太郎、都築麗江、小鹿 一、五十嵐康弘、伊藤幸成、中川 優
2. 発表標題 プラディミシン誘導体を利用した糖タンパク質の染色
3. 学会等名 2020年日本農芸化学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大矢柚香、小鹿一、五十嵐康弘、伊藤幸成、中川優
2. 発表標題 マンノースとの結合におけるプラディミシンA の二糖部分の役割
3. 学会等名 2020年日本農芸化学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 相川順一、伊藤幸成
2. 発表標題 EDEM の大腸菌での発現
3. 学会等名 2020年日本農芸化学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中尾仁美、瀬古玲、伊藤幸成、迫野昌文
2. 発表標題 ERp29 による分子シャペロンの二量化と機能評価に関する検討
3. 学会等名 2020年日本農芸化学会年会（誌上開催）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗原佑太、佐野加苗、宮沢進平、赤井華純、石井希実、松尾一郎
2. 発表標題 保護基の効果を利用した多分岐複合型糖鎖の立体選択的な合成
3. 学会等名 令和2年度日本化学会関東支部群馬地区研究交流発表会（群馬）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤美咲、佐野加苗、江橋竜史、石井希実、松尾一郎
2. 発表標題 保護基の効果を利用したマンノオリゴ糖の合成
3. 学会等名 令和2年度日本化学会関東支部群馬地区研究交流発表会（群馬）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野加苗, 黒岩歩実, 石井希実, 松尾一郎
2. 発表標題 ビレンエキシマーの解消を利用したendo- α -mannosidaseの活性検出
3. 学会等名 第14回東北糖鎖研究会 (岩手, オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 狩野航輝, 横川梨乃, 黒岩歩実, 佐野加苗, 石井希実, Peter Greimel, 松尾一郎
2. 発表標題 アルキル鎖長が異なるエーテル型LPGの系統的合成
3. 学会等名 第14回東北糖鎖研究会 (岩手, オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大野 詩歩, 真鍋 法義, 山口 芳樹
2. 発表標題 計算化学によるリピトールのコンフォメーション空間の解析
3. 学会等名 日本薬学会第140年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamaguchi Yoshiki
2. 発表標題 NMR approach to investigate glycan structure and function
3. 学会等名 14th Chandigarh Science Congress-2020 (India online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamaguchi Yoshiki
2. 発表標題 NMR analysis of glycolipid in aqueous solution
3. 学会等名 International Symposium on Glyco-lipidologue (Wako, Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口芳樹、眞鍋史乃、Peter Greimel、伊藤幸成
2. 発表標題 完全重水素化シクロデキストリンの酵素化学合成と糖脂質のNMR解析への応用
3. 学会等名 日本薬学会第140年会 (誌上開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口芳樹
2. 発表標題 糖鎖構造の多様性の生物学的意義を求めて
3. 学会等名 第16回機能性糖鎖研究会 (鳥取) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sano Kanae, Takagaki Tomomichi, Kuroiwa Ayumi, Ishii Nozomi, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Efficient synthesis of high-mannose-type oligosaccharide as versatile tools to study N-glycan biosynthesis pathway
3. 学会等名 20th European Carbohydrate Symposium (Leiden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田 光穂, 石井 希実, 佐野 加苗, 飯野 健太, 松崎 裕二, 西川宜秀, 加藤 紀彦, 山本 憲二, 松尾 一郎
2. 発表標題 コアフコシルN-グリカンに作用するENGaseの活性検出プローブの合成
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会 (名古屋)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾一郎
2. 発表標題 NGLY1研究を化学的アプローチにより加速させたい; 細胞内エンドグリコシダーゼ活性検出系の開発
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会 (名古屋) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野加苗, 栗原大輝, 石井希実, 黒岩歩美, 吉原利忠, 飛田成史, 戸谷希一郎, 松尾一郎
2. 発表標題 FRET型糖鎖プローブを用いたGolgi endo- α -mannosidaseの活性検出系の開発
3. 学会等名 第13回東北糖鎖研究会 (新潟)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野加苗, 永田光穂, 高垣智迪, 栗原佑太, 松尾一郎
2. 発表標題 小胞体関連高マンノース型糖鎖の収斂的合成研究
3. 学会等名 第13回東北糖鎖研究会 (新潟)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田 光穂, 石井 希実, 佐野 加苗, 飯野 健太, 松崎 裕二, 西川宜秀, 加藤 紀彦, 山本 憲二, 松尾 一郎
2. 発表標題 FRET型コアフコシル-N-グリカン6糖基質の合成と評価
3. 学会等名 第13回東北糖鎖研究会(新潟)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井彰, 佐野加苗, 松尾一郎
2. 発表標題 FRET効率検証を目的としたキトオリゴ糖プローブの合成とキチナーゼ活性検出への応用
3. 学会等名 第13回東北糖鎖研究会(新潟)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高垣智迪, 宇津井隆志, 宮沢進平, 佐野加苗, 永田光穂, 松尾一郎
2. 発表標題 糖水酸基の立体反転反応を基盤とした複合型糖鎖の合成研究
3. 学会等名 GlycoTokyo2019シンポジウム(埼玉大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野 加苗, 永田 光穂, 松尾 一郎
2. 発表標題 糖タンパク質糖鎖の効率的合成とその応用展開
3. 学会等名 第10回グライコバイオロジックス研究会(産総研臨海副都心センター)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤樹、白井彰、松尾一郎
2. 発表標題 ポリラクトサミン構造構築のためのラクトサミンモノマーの合成
3. 学会等名 令和元年日本化学会関東支部群馬地区研究交流発表会（群馬大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Membrane sphingolipid synthesis and metabolic regulation: a novel function of GPRC5B
3. 学会等名 FASEB Special Meeting- Spjhingolipid Biology (Cas Cascais, Portugal) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Generation of cholesteryl glycosides by metabolic crosstalk between cholesterol and glycosphingolipid, and its biological implication
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会（横浜）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hung Hui-Hsing, Fujinawa Reiko, Kamiguchi Hiroyuki, Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 The mechanism and roles of phosphatidylglucoside biosynthesis
3. 学会等名 60th International Conference on the Bioscience of Lipids (Tokyo) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 洪 慧馨、藤縄 玲子、上口 裕之、平林 義雄
2. 発表標題 The Mechanism of UDP-glucose: glycoprotein glucosyltransferases-mediated Phosphatidylglucoside Biosynthesis
3. 学会等名 第61回 日本脂質生化学会（札幌）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山 央子、井手 三津子、Peter Greimel、Hans Aerts、上口 裕之、平林 義雄
2. 発表標題 グルコシルセラミド分解酵素はステロールとガラクトシルセラミド間のトランスガラクトシレーション反応を触媒する
3. 学会等名 第61回 日本脂質生化学会（札幌）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Iwahashi Naoyuki, Ikezaki Midori, Ihara Yoshito, Ino Kazuhiko
2. 発表標題 ER stress-mediated release of calreticulin impairs forskolin-induced syncytialization in Bello cells
3. 学会等名 The Society for Reproductive Investigation 's 67th Annual Scientific Meeting (Vancouver) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西辻和親、内村健治、山下太郎、桑原香織、亀山泰和、水口峰之、奥平桂一郎、井原義人、扇田隆司、斎藤博幸、安東由喜雄
2. 発表標題 Heparan sulfate S-domains that accumulate in kidney transthyretin deposits accelerate fibril formation and promote cytotoxicity
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会（横浜）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井内陽子、岩橋尚幸、南方志帆、櫻井翔、眞鍋史乃、伊藤幸成、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 糖付加アミノ酸C-マンノシル化トリプトファンのヒト血漿における病的変化
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会（横浜）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南方志帆、井内陽子、西辻和親、櫻井翔、眞鍋史乃、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 C-マンノシル化トリプトファンはオートファジー経路により産生される
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会（横浜）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池崎みどり、串上遥香、岩橋尚幸、山本円、西辻和親、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 細胞外カルレティキュリンによる胎盤関連細胞の機能障害
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会（横浜）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井原義人、岩橋尚幸、井内陽子、南方志帆、櫻井翔、眞鍋史乃、伊藤幸成、井籠一彦
2. 発表標題 C-Man-TrpIによる卵巣腫瘍診断の可能性
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井内陽子、櫻井翔、南方志帆、井邊公章、奥陵佑、眞鍋史乃、木下タロウ、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 C-マンノシル-トリプトファンはC-マンノシル化タンパク質合成を介して生成する
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南方志帆、井内陽子、西辻和親、櫻井翔、眞鍋史乃、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 C-マンノシル-トリプトファン産生はオートファジー経路により調節される
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒木璃子、菊間 隆志、武田 陽一
2. 発表標題 糸状菌中性スフィンゴ糖脂質生合成解析に向けた2'-ヒドロキシセラミドアナログの合成
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部純平、Ding Feiqing、Guy Adam T.、Greimel Peter、平林義雄、上口裕之、伊藤幸成
2. 発表標題 GPR55 の構造活性相関研究を指向したスクアリル基を有するLPG 類縁体の合成
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口芳樹、眞鍋史乃、Greimel Peter、伊藤幸成
2. 発表標題 水溶液中における糖脂質の脱ミセル化とNMR 法による性状解析
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮西航、小鹿一、五十嵐康弘、伊藤幸成、中川優
2. 発表標題 プラディミシンA のアミド誘導体の合成と活性評価
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新井健太、蟹江善美、大竹敦子、大黒周作、二井野菜々、高祖正成、伊藤幸成、樺山一哉、深瀬浩一、蟹江治
2. 発表標題 蛍光糖脂質プローブlactosyl ceramide BODIPY を用いた細胞内の糖鎖変換と膜流動性評価
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梶原康宏
2. 発表標題 炭水化物研究
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤泉、大谷結子、向川友紀、山内美紀、和泉雅之、真木勇太、岡本亮、伊藤幸成、梶原康宏
2. 発表標題 UDP- [U-13C]-glucoseを利用した糖タンパク質品質管理機構の追跡
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田有彩、真木勇太、岡本亮、和泉雅之、伊藤幸成
2. 発表標題 シアル酸転移酵素の半合成と活性評価
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 栗原大輝、柴山佳大、平野真、足立優花、武田陽一、伊藤幸成、戸谷希一郎
2. 発表標題 ハイブリッド結合型カルレティキュリン阻害剤の開発
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北條真琴、柴山佳大、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 細胞表面カルレティキュリンに対する蛍光型標識化合物の合成研究
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榆木淳平, 河津崇, 旅川広大, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 ENGase阻害剤開発を志向した非天然型N-グリカンコア 3 糖の合成研究
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会 (名古屋)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新田恭平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 合成三糖類を用いた小胞体 -1,2-マンノシダーゼ類の糖鎖特異性解析
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会 (名古屋)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野辺悠一, 倉垣尚弥, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 シリルアシスト型1,2-cis- -グルコシド形成反応のメカニズム解析
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会 (名古屋)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 碓井瑠智雄, 新田恭平, 小泉亮, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 高マンノース型糖鎖のワンポット合成を志向した樹状型グリコシル化法の開発
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会 (名古屋)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口芳樹
2. 発表標題 水溶液中における糖脂質の脱ミセル化とNMR法による性状解析
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾仁美, 瀬古玲, 伊藤幸成, 迫野昌文
2. 発表標題 ERp29の連結によるレクチンシャペロンCNXのダイマー形成
3. 学会等名 第38回日本糖質学会年会（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奥陵佑、井邊公章、井内陽子、南方志帆、櫻井翔、眞鍋史乃、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 マウス体内のC-マンノシル化トリプトファンとその加齢による変化
3. 学会等名 第66回日本生化学会近畿支部例会（宇治）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 串上遥香、岩橋尚幸、池崎みどり、山本円、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 細胞性栄養膜細胞（BeWo細胞）における小胞体ストレスとカルレティキュリンの影響
3. 学会等名 第66回日本生化学会近畿支部例会（宇治）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井内陽子、岩橋尚幸、南方志帆、櫻井翔、眞鍋史乃、伊藤幸成、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 生体における遊離C-Mannosyl化Tryptophanの測定と疾患マーカーとしての可能性
3. 学会等名 第20回 関西グライコサイエンスフォーラム(豊中)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋慶晃、武田陽一、菊間隆志
2. 発表標題 麹菌A. oryzaeにおけるオートファジーによる核の分解(ヌクレオファジー)の解析
3. 学会等名 第19回糸状菌分子生物学コンファレンス(札幌)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Manabe Shino, Yamaguchi Yoshiki, Matsumoto Kana, Fuchigami Hirobumi, Kawase Taiji, Hirose Kenji, Mitani Ai, Sumiyoshi Wataru, Kinoshita Takashi, Abe Junpei, Yasunaga Masahiro, Matsumura Yasuhiro, Ito Yukishige
2. 発表標題 Preparation of homogeneous antibody-drug conjugate through glycan remodeling
3. 学会等名 2019 Gordon ResearCarbohydrates Carbohydrates (Hong Kong) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Guy Adam T., Kano Koki, Ito Yukishige, Kamiguchi Hiroyuki, Matsuo Ichiro, Greimel Peter
2. 発表標題 G Protein-Coupled Receptor 55: Probing the Ligand Binding Pocket
3. 学会等名 20th European Carbohydrate Symposium, Leiden (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ito Yukishihge
2. 発表標題 Synthetic approaches toward functional analysis of glycoconjugates produced in the ER
3. 学会等名 ACS Fall 2019 National Meeting (San Diego) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田浦寛太、都築麗子、小鹿一、五十嵐康弘、伊藤幸成、中川優
2. 発表標題 Pradimicin Aの二量体による真菌の染色
3. 学会等名 第61回天然有機化合物討論会 (広島)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口芳樹、眞鍋史乃、Greimel Peter、伊藤幸成
2. 発表標題 完全重水素化シクロデキストリンの化学酵素合成と糖脂質のNMR解析
3. 学会等名 第58回NMR討論会 (川崎)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤幸成
2. 発表標題 化学合成力で推進する糖質科学
3. 学会等名 第17回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム (京都) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤幸成
2. 発表標題 何の酔狂で糖鎖を作る？
3. 学会等名 第9回化学フェスタ(東京)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Abe Junpei, Ding Feiqing, Guy Adam T., Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Ito Yukishige
2. 発表標題 Squaryl group modified Lysophosphatidyl- α -D-glucoside analogue as GPR55 potential agonists of GPR55
3. 学会等名 11th ACGG Conference (Busan, Korea)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamaguchi Yoshiki, Manabe Shino, Greimel Peter, Ito Yukishige
2. 発表標題 NMR structural analysis of glycolipid in aqueous solution
3. 学会等名 11th ACGG Conference (Busan, Korea)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Functions of N-Glycan on Protein
3. 学会等名 8th Chemical Protein Synthesis (Berlin)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Elucidation of N-glycan
3. 学会等名 Gordon Research Conference Carbohydrate (Hong Kong) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Functions of N-Glycan on Protein
3. 学会等名 ACS Fall 2019 National Meeting (San Diego) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro, Maki Yuta
2. 発表標題 Chemical Synthesis of Homogeneous Glycoprotein Having a Tri-antennary Sialyloligosaccharide
3. 学会等名 7th Modern Solid Phase Peptide synthesis & its Applications Symposium (Palm Cove, Australia) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Semi-synthesis of Homogeneous Glycoproteins
3. 学会等名 13th Australian Peptide Conference (Port Douglas, Australia) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Functions of N-Glycan on Protein
3. 学会等名 Emil Fischer memoriam symposium (Berlin) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Functions of N-Glycan on Protein
3. 学会等名 IUPAC international symposium Bioorganic chemistry (Shenzhen, China) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梶原康宏
2. 発表標題 糖タンパク質糖鎖の普遍的機能
3. 学会等名 17回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム、京都 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shimada Arisa, Maki Yuta, Okamoto Ryo, Izumi Masayuki, Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Semisynthesis of 2,6-sialyltransferase bearing a high mannose type oligosaccharide and evaluation of its enzymatic activity
3. 学会等名 Gordon Research Conference Carbohydrate (Hong Kong) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hojo Makoto, Shibayama Keita, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Synthetic study of fluorescent labeling compound for cell surface calreticulin
3. 学会等名 20th European Carbohydrate Symposium (Leiden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kuribara Taiki, Imagawa Ayami, Hirano Makoto, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Expression and activity of calnexine.calreticulin cycle related proteins in obesity and diabetes rat modeled livers
3. 学会等名 20th European Carbohydrate Symposium (Leiden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Totani Kiichiro, Kawanobe Yuichi, Kuragaki Naoya, Kuribara Taiki
2. 発表標題 Probing the influence of silyl-protecting group on the stereoselectivity of glucosyl donors towards -1,2-cis glucosylation
3. 学会等名 20th European Carbohydrate Symposium (Leiden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Usui Lucio, Nitta Kyohei, Koizumi Akira, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Development of dendritic glycosylation methodology towards one-pot synthesis of high-mannose glycans
3. 学会等名 20th European Carbohydrate Symposium (Leiden) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Usui Ruchio, Nitta Kyohei, Koizumi Akira, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Development of dendritic glycosylation methodology towards one-pot synthesis of high-mannose glycans
3. 学会等名 The International Graduate Symposium on Industrial Biotechnology (Jiangsu, China) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawanobe Yuichi, Kuragaki Naoya, Tsubomura Taro, Yamazaki Yasuomi, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Development of silyl-assisted 1,2-cis- α -glucosylation reaction
3. 学会等名 The International Graduate Symposium on Industrial Biotechnology (Jiangsu, China) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nitta Kyohei, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Specificity analysis of ER α -1,2-mannosidases by using synthetic trimannosides
3. 学会等名 The International Graduate Symposium on Industrial Biotechnology (Jiangsu, China) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川瀬浩平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 選択的阻害剤を駆使した小胞体 α -1,2-マンノシダーゼ類の同定と特異性解析の検討
3. 学会等名 第9回CSJ化学フェスタ(東京)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野辺悠一, 倉垣尚弥, 坪村太郎, 山崎康臣, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 1,2-cis- -グルコシド化に向けた糖供与体の立体選択制に対するシリル保護基の影響
3. 学会等名 GlycoTOKYO2019シンポジウム (埼玉大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新田恭平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 糖タンパク質の選別を司る小胞体 -1,2-マンノシダーゼ類のエンド結合識別能の解明
3. 学会等名 GlycoTOKYO2019シンポジウム (埼玉大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井涼太, 川瀬浩平, 栗原大輝, 戸谷希一郎
2. 発表標題 フォールディングセンサー酵素の解析に資する均一な糖鎖をもつ糖タンパク質型プローブの創製研究
3. 学会等名 GlycoTOKYO2019シンポジウム (埼玉大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamaguchi Yoshiki
2. 発表標題 Solution NMR and docking simulation analysis of interaction between tau aggregates and low-molecular-weight compounds,
3. 学会等名 International Academic Forum on Neuroinflammation and Psychopharmacology (Nantong, China) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamaguchi Yoshiki
2. 発表標題 Solution NMR and docking simulation analysis of interaction between tau aggregates and small chemicals
3. 学会等名 Asian Pacific Prion Symposium2019 (Wako) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamaguchi Yamaguchi
2. 発表標題 An NMR approach to investigate glycolipid structure
3. 学会等名 TMPU-AS Joint Glycoscience Symposium (Taipei) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口芳樹
2. 発表標題 糖鎖構造の多様性とその生物学的意義の探求
3. 学会等名 第13回東北糖鎖研究会 (新潟) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野 詩歩、真鍋 法義、山口 芳樹
2. 発表標題 計算化学によるリピトールのコンフォメーション空間の解析
3. 学会等名 第58回日本薬学会東北支部大会 (仙台)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋山 央子、井手 三津子、中西 悦郎、上村 紀仁、山口 芳樹、Greimel Peter、上口 裕之、高橋 良輔、平林 義雄
2. 発表標題 グルコシルセラミド分解酵素による新規脳内ステロール代謝物・ステロール配糖体の代謝制御
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会（横浜）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口芳樹
2. 発表標題 糖鎖の高次構造と相互作用原理の解明に向けて
3. 学会等名 第17回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム（京都）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田 紀之、山口 芳樹、海老名 保男、佐々木 高義、石田 康博
2. 発表標題 残余双極子カップリング測定における配向力、温度安定性、有機溶媒耐性を兼ね備えた新規配向剤
3. 学会等名 第58回NMR討論会（川崎）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口芳樹
2. 発表標題 糖鎖構造解析の基礎とその実際
3. 学会等名 第410回CBI学会講演会（東京）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口芳樹
2. 発表標題 糖鎖構造の多様性の生物学的意義を求めて
3. 学会等名 第16回機能性糖鎖研究会（鳥取）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakao Hitomi, Sakono Masafumi
2. 発表標題 ERp29 assists dimerization of ER-resident molecular chaperone
3. 学会等名 1st Japan - Germany - Switzerland Workshop for Enzyme (Toyama)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾 仁美, 迫野昌文
2. 発表標題 ER 内在レクシャペロンと ERp29 の複合体形成によるシャペロンのダイマー化
3. 学会等名 生化学会第37回北陸支部大会（福井）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾仁美, 瀬古玲, 伊藤幸成, 迫野昌文
2. 発表標題 ERp29 はER 内在分子シャペロン間を架橋しダイマー形成を補助する
3. 学会等名 第6回FCCA シンポジウムグライコサイエンス若手フォーラム（名古屋）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中尾 仁美, 瀬古 玲, 伊藤 幸成, 迫野 昌文
2. 発表標題 ER内在レクチンシャペロンとERp29の複合体形成によるシャペロンのダイマー化
3. 学会等名 第92回日本生化学会大会 (横浜)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾一郎
2. 発表標題 細胞内エンドグリコシダーゼ活性検出に向けた化学的アプローチ
3. 学会等名 理研シンポジウム 細胞内糖修飾の統合的ケミカルバイオロジー (和光) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井原義人
2. 発表標題 C-マンノシル-トリプトファンの生体分布と疾患変動
3. 学会等名 理研シンポジウム 細胞内糖修飾の統合的ケミカルバイオロジー (和光) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shimada Arisa, Maki Yuta, Okamoto Ryo, Izumi Masayuki, Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Semisynthesis of glycosyl sialyltransferase bearing a homogeneous N-linked oligosaccharide
3. 学会等名 10th International Peptide Symposium (Kyoto, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 阿部純平、Feiqing Ding、Adam T. Guy、Peter Greimel、平林義雄、上口裕之、伊藤幸成
2. 発表標題 GPR55 の構造活性相関研究に向けたスクアリル基修飾型糖類縁体の開発
3. 学会等名 日本薬学会第139年会（千葉）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤幸成
2. 発表標題 合成化学で挑む細胞内糖修飾の生体機能
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 相川順一、伊藤幸成
2. 発表標題 シャペロン融合型EDEMタンパク質の発現と精製
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田浦寛太、小鹿一、五十嵐康弘、伊藤幸成、中川優
2. 発表標題 糖結合性天然色素の二量体を用いた真菌の染色
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊泰典、小鹿一、菅原貴弘、相田美砂子、五十嵐康弘、伊藤幸成、中川優
2. 発表標題 ブラディミシンAとの複合体形成におけるマンノースの環内酸素原子の寄与
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮西航、小鹿一、五十嵐康弘、伊藤幸成、中川優
2. 発表標題 ブラディミシンAのアミド誘導体の合成と活性評価
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口実愛、菊間隆志、瀬古玲、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 EDEMタンパク質の人工糖鎖基質に対する活性評価
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野加苗、栗原大輝、黒岩歩美、石井希実、吉原利忠、戸谷希一郎、松尾一郎
2. 発表標題 FRET型プローブを用いたendo- α -mannosidaseの活性評価
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 狩野航輝、大山純平、齋藤祥吾、Peter Greimel、松尾一郎
2. 発表標題 リゾホスファチジルグルコシドの合成
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾一郎、石井希実、永田光穂、佐野加苗、加藤紀彦、山本憲二、飯野健太、松崎祐二、西川宣秀
2. 発表標題 コアフコースを有する糖鎖に作用するENGase探索に向けた蛍光プローブの合成
3. 学会等名 日本農芸化学会2019年度大会（東京）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大谷結子、向川友紀、山内美紀、和泉雅之、真木勇太、岡本亮、梶原康宏
2. 発表標題 13C標識UDP-Glcを利用した糖タンパク質品質管理機構の追跡
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 島田有彩、真木勇太、岡本亮、和泉雅之、梶原康宏
2. 発表標題 ハイマンノース型糖鎖を有するシアル酸転移酵素の半合成と酵素活性評価
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田南、今田翔平、真木勇太、岡本亮、和泉雅之、梶原康宏
2. 発表標題 Boc固相合成法と大腸菌発現法を用いたFcフラグメントの合成と二量化に向けたフォールディングの条件検討
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上嶋里菜、戸田奈穂子、Greimel Peter、菊間隆志、武田陽一
2. 発表標題 ホスファチジン酸に対するグルコシド化を検出するための分子プローブの合成
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東爽佳、菊間隆志、武田陽一
2. 発表標題 タンパク質中のシステイン残基を特異的に架橋する多機能性プローブの開発
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 碓井瑠智雄、新田恭平、小泉亮、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 高マンノース型糖鎖のワンポット合成を志向した樹状型グリコシル化法の開発
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川野辺悠一、倉垣尚弥、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 シリルアシスト型 1,2-cis- -グルコシル化反応
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北條真琴、柴山佳大、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 細胞表面カルレティキュリン に対する蛍光型標識化合物の合成研究
3. 学会等名 日本化学会第99春季年会（神戸）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hung Hui-Hsing, Ito Emi, Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Regulatory Mechanisms of Phosphatidyglucoside Biosynthesis
3. 学会等名 International Symposium on ER stress, glycosylation, homeostasis and diseases (Wako, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iwahashi Naoyuki, Yamamoto Madoka, Ihara Yoshito, Ino Kazuhiko
2. 発表標題 Endoplasmic reticulum chaperone calreticulin plays a key role in human placental development
3. 学会等名 70th Annual Congress of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology International Session Workshop (Miyagi, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Chemical Synthesis of Homogeneous Sialylglycoproteins
3. 学会等名 Sialoglyco2018 (Banff, Canada) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松尾一郎
2. 発表標題 FRETクエンチング解消を作用原理とした糖加水分解酵素の活性検出
3. 学会等名 第9回グライコバイオロジックス研究会 (産総研臨海副都心センター) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩橋尚幸、池崎みどり、山本円、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 カルレティキュリンはヒト絨毛癌細胞株(BeWo)においてE-カドヘリンの細胞表面への輸送に関与する
3. 学会等名 日本生化学会第65回近畿支部例会 (西宮)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 洪慧馨、長塚靖子、伊藤恵実、平林義雄
2. 発表標題 小胞体ストレス下におけるホスファチジルグルコシド合成
3. 学会等名 第60回日本脂質生化学会 (八王子)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋山央子、井手三津子、佐矢野智子、中西悦郎、上村紀仁、Peter Greimel、高橋良輔、平林義雄
2. 発表標題 グルコシルセラミド分解酵素による脳内ステロール配糖体群の代謝制御
3. 学会等名 第60回日本脂質生化学会（八王子）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恩田桃子、石渡明弘、伊藤幸成、氏家誠、袴田航、平野貴子、西尾俊幸
2. 発表標題 ヒト培養細胞におけるカルボリン誘導体の小胞体グルコシダーゼII阻害：網羅的N-結合型糖鎖解析による作用標的の検討
3. 学会等名 日本ケミカルバイオロジー学会第13回年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井希実、佐野加苗、黄澄澄、鈴木匡、飯野健太、松崎祐二、松尾一郎
2. 発表標題 細胞内エンドグリコシターゼ活性検出に向けた化学的アプローチ
3. 学会等名 日本ケミカルバイオロジー学会第13回年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 N-Glycans on Proteins
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Greimel Peter, Guy Adam T., Matsuo Ichiro, Ito Yukishige, Kamiguchi Hiroyuki, Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 GPR55 ligands: from endocannabinoids to lysolipids
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ding Feiqing, Guy Adam T., Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Ito Yukishige
2. 発表標題 Synthesis of squary group modified phosphoglycolipid analogs as ligands fro GPR55
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Totani Kiichiro, Hirano Makoto, Kuribara Taiki, Williams Spencer J., Ito Yukishige
2. 発表標題 Endomannosidase triages misfolded glycoprotein in the endoplasmic reticulum
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kano Koki, Ohyama Junpei, Sano Kanae, Greimel Peter, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Large Scale Synthesis of the Native GPR55 Agonist Lyso-phosphatidyl- -D-glucoside
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sano Kanae, Kuribara Taiki, Kuroiwa Ayumi, Sakakura Chikafumi, Ishii Nozomi, Totani Kiichiro, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Synthesis of substrates for monitoring hydrolysing activity of endo- α -mannosidase
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fukushima Katsuya, Ono Shunsuke, Takeda Yoichi
2. 発表標題 Intramolecular glycosylation of peptide-tethered glucose derivatives
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nitta Kyohei, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Stereoselective synthesis of trimannoside-branched in high-mannose glycan ~Reactivity tuning with mixed solvent system~
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ikuno Yuumi, Kuribara Taiki, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Detection of carbohydrate interaction using sugar-conjugated magnetic beads
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kuribara Taiki, Ishihara Toshihiro, Kudo Takaya, Hirano Makoto, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Peptide specificity analysis of peptide: N-glycanases using synthetic chitobiose-pentapeptides
3. 学会等名 29th International Carbohydrate Symposium (Lisbon, Portugal) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 眞鍋史乃、阿部純平、松本加奈、山口芳樹、伊藤幸成
2. 発表標題 改変エンド-β-N-アセチルグルコサミニダーゼ endo-CC N180Hの糖受容体基質特異性
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Greimel Peter, Guy Adam T., Kano Koki, Ohyama Jyunpei, Kamiguchi Hiroyuki, Hirabayashi Yoshio, Ito Yukishige, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Synthetic Lysolipid Analogues as GPR55 Ligands
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗原大輝、柴山佳大、平野真、足立優花、山谷健、武田陽一、伊藤幸成、戸谷希一郎
2. 発表標題 多機能性に着目したカルレティキュリンの解析と機能調節への応用
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長江雅倫、木塚康彦、三原恵美子、北郷悠、花島慎弥、伊藤幸成、高木淳一、谷口直之、山口芳樹
2. 発表標題 癌化に関連する糖転移酵素 GnT-Vの結晶構造解析
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恩田桃子、石渡明弘、袴田航、平野貴子、伊藤幸成、遠矢幸伸、西尾俊幸
2. 発表標題 非糖ミミック小胞体グルコシダーゼ II 阻害剤の抗ウイルス活性
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾仁美、瀬古玲、伊藤幸成、迫野昌文
2. 発表標題 ERp29 を介した ER 内在レクチンシャペロンのダイマー形成
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 折田紗弥、菊間隆志、瀬古玲、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 小胞体グルコース転移酵素における基質認識の定量的評価
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井内陽子、南方志帆、櫻井翔、井邊公章、奥陵佑、眞鍋史乃、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 マウス in vivo におけるC-マンノシル化トリプトファンとその加齢による変化
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 島田有彩、真木勇太、岡本亮、和泉雅之、梶原康宏
2. 発表標題 半合成法を利用した利用したシアル酸転移酵素の合成とその活性評価
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野加苗、栗原大輝、黒岩歩美、石井希実、戸谷希一郎、松尾一郎
2. 発表標題 Endo- α -mannosidase活性検出を目指したFRET型プローブの合成
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 狩野 航輝、大山 純平、齋藤 祥吾、松尾 一郎
2. 発表標題 Lyso-phosphatidyl- α -D-glucosideの立体選択的合成
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 白井彰、佐野加苗、江田慧、松尾一郎
2. 発表標題 連続的グリコシル化を用いたGlcNAcオリゴマーブローブの合成
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新田恭平、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 溶媒和の制御による高マンノース型糖鎖部分構造の立体選択的合成と糖加水分解酵素特異性解析への応用
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川野辺悠一、倉垣尚弥、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 シリルアシスト型1,2-cis- β -グルコシル化反応
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 生乃祐実、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 糖鎖集積磁気ビーズを用いた糖質間相互作用検出法の開発
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 戸谷希一郎、栗原大輝、平野真
2. 発表標題 小胞体糖鎖認識タンパク質のダブルチェック機構
3. 学会等名 第37回日本糖質学会年会（東京）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ding Feiqing, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige
2. 発表標題 Stereodivergent Mannosylation Using 2-O-(ortho-Tosylamido)benzyl Group
3. 学会等名 第5回FCCAシンポジウム / グライコサイエンス若手フォーラム2018（仙台）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾仁美、瀬古玲、伊藤幸成、迫野昌文
2. 発表標題 レクチンシャペロンとERp29 の相互作用に関する生物学的検討
3. 学会等名 第5回FCCAシンポジウム / グライコサイエンス若手フォーラム2018（仙台）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 折田紗弥、菊間隆志、瀬古玲、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 小胞体グルコース転移酵素における基質認識の定量的評価
3. 学会等名 第5回FCCAシンポジウム / グライコサイエンス若手フォーラム2018（仙台）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口実愛、菊間隆志、瀬古玲、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 小胞体品質管理機構に関連するマンノシダーゼの活性評価
3. 学会等名 第5回FCCAシンポジウム/グライコサイエンス若手フォーラム2018(仙台)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恩田桃子、石渡明弘、伊藤幸成、袴田航、平野貴子、西尾俊幸
2. 発表標題 非糖ミミックな構造を有するカルボリン誘導体による小胞体グルコシダーゼ II 阻害時のヒト培養細胞における網羅的 N-結合型糖鎖解析
3. 学会等名 第67回日本応用糖質科学会大会(秋田)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶原康宏
2. 発表標題 糖タンパク質の精密化学合成を利用する糖鎖機能解明
3. 学会等名 日本農芸化学会中部支部第183例会(名古屋)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶原康宏
2. 発表標題 糖タンパク質の精密化学合成
3. 学会等名 日本生物工学会2018(吹田)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中川優、土井崇嗣、竹腰清乃理、菅原貴弘、赤瀬大、相田美砂子、都築麗江、渡邊泰典、戸村友彦、小鹿一、五十嵐康弘、橋爪大輔、伊藤幸成
2. 発表標題 Pradinicinのマンノース認識機構の解明と糖鎖染色への応用
3. 学会等名 第60回天然有機化合物討論会（久留米）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾仁美、瀬古玲、伊藤幸成、迫野昌文
2. 発表標題 PDIタンパク質ERp29によるレクチンシャペロンのダイマー化
3. 学会等名 第91回日本生化学大会（京都）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻井翔、井内陽子、南方志帆、眞鍋史乃、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 C-マンノシル化トリプトファンの生体内分布と糖尿病によるその変動
3. 学会等名 第91回日本生化学大会（京都）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩橋尚幸、池崎みどり、山本円、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 カルレティキュリンはヒト絨毛癌細胞株においてフォルスコリン誘導性のシンシチウム化に関与する
3. 学会等名 第91回日本生化学大会（京都）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池崎みどり、西岡直樹、西川太郎、中野雄斗、串上遥香、井原義人
2. 発表標題 ラット上皮細胞におけるTGF- 誘導性EMTに対するHsc70の機能
3. 学会等名 第91回日本生化学大会（京都）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Iwahashi Naoyuki, Ikezaki Midori, Yamamoto Madoka, Ihara Yoshito, Ino Kazuhiko
2. 発表標題 Endoplasmic reticulum molecular chaperone calreticulin plays a key role in human placentation
3. 学会等名 International Federation of Placenta Associations 2018 (Tokyo, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤幸成
2. 発表標題 路地裏で糖鎖
3. 学会等名 Pioneering Project: Chemical Probe (生命現象探索分子) 第一回合同合宿セミナー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 恩田桃子、石渡明弘、袴田航、平野貴子、伊藤幸成、遠矢幸伸、西尾俊幸
2. 発表標題 カルボリン誘導体の小胞体グルコシダーゼII阻害による抗ウイルス活性
3. 学会等名 日本農芸化学会関東支部2018年度大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川翔太、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 二官能性高マンノース型糖鎖プローブの合成と糖転移酵素UGGTの機能解析への応用
3. 学会等名 第8回 CSJ化学フェスタ(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤宏樹、山本侑未子、久保佳蓮、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 阻害剤固定化カラムによる小胞体エンドマンノシダーゼのアフィニティ精製
3. 学会等名 第8回 CSJ化学フェスタ(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榆木淳平、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 ENGase 阻害剤を志向した非天然型 N-グリカンコア3 糖類の合成研究
3. 学会等名 第8回 CSJ化学フェスタ(東京)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Totani Kiichiro, Hirano Makoto, Kuribara Taiki, Williams Spencer J., Ito Yukishige
2. 発表標題 Endomannosidase contributes to degradation of misfolded glycoprotein in the endoplasmic reticulum
3. 学会等名 10th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference (Tainan, Taiwan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Abe Junpei, Ding Feiqing, Guy Adam T., Greimel Peter, Hirabayashi Yoshio, Kamiguchi Hiroyuki, Ito Yukishige
2. 発表標題 Synthesis of squaryl group modified glycolipid analogs toward development of potent GPR55 agonists
3. 学会等名 10th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference (Tainan, Taiwan) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部純平、Feiqing Ding、Adam T. Guy、Peter Greimel、平林義雄、上口裕之、伊藤幸成
2. 発表標題 高活性GPR55アゴニスト開発を指向したスクアリル基修飾型糖脂質誘導体の合成
3. 学会等名 GlycoTOKYO2018 (和光)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清野淳一、朝武悠奈、原田陽一郎、武田陽一、瀬古玲、戸谷希一郎、松尾一郎、伊藤幸成、鈴木匡
2. 発表標題 ハイマンノース型糖鎖のライブラリー作成
3. 学会等名 GlycoTOKYO2018 (和光)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新田恭平、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 高マンノース型糖鎖部分構造の立体選択的合成と等加水分解酵素特異性解析への応用
3. 学会等名 GlycoTOKYO2018 (和光)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐野加苗、栗原大輝、黒岩歩美、石井希実、千葉靖典、戸谷希一郎、松尾一郎
2. 発表標題 FRET型プローブを用いた Endo- α -mannosidase の活性検出
3. 学会等名 GlycoTOKYO2018 (和光)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川野辺悠一、倉垣尚弥、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 シリルアシスト型 1,2-cis- α -グルコシル化反応
3. 学会等名 GlycoTOKYO2018 (和光)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 碓井瑠智雄、新田恭平、小泉亮、栗原大輝、戸谷希一郎
2. 発表標題 高マンノース型糖鎖のワンポット合成を志向した樹状型グリコシル化反応の開発
3. 学会等名 GlycoTOKYO2018 (和光)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤幸成
2. 発表標題 化学の針で糖鎖研究の経糸と緯糸を紡ぐ
3. 学会等名 岐阜大学生命の鎖統合研究センター開所式 (岐阜) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Synthetic Substrates for the Analysis of Glycan Processing Enzymes in the ER
3. 学会等名 Gordon Research Conference on Carbohydrates (Mount Snow, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Analysis of ER Glucosyltransferase Using Chemically Synthesized Substrates
3. 学会等名 24th International Symposium on Glycoconjugates (Jeju, Korea) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤幸成
2. 発表標題 合成化学で糖鎖を愛でる
3. 学会等名 第4回FCCAシンポジウム, グライコサイエンス若手フォーラム2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ding Feiqing, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige
2. 発表標題 Stereoselective and Divergent Synthesis of Anomeric Isomers of Triglucosides Using a Single Donor
3. 学会等名 International Symposium Systems Glycobiology and Beyond (Wako, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Abe Junpei, Matsumoto Kana, Manabe Shino, Yamaguchi Yoshiki, Ito Yukishige
2. 発表標題 Acceptor range of endo- α -N-acetylglucosaminidase Mutant endo-CC N180H: from Monosaccharide to Antibody
3. 学会等名 International Symposium Systems Glycobiology and Beyond (Wako, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ding Feiqing, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige
2. 発表標題 2-O-(ortho-tosylamidobenzyl)Glucosyl Donor for Stereoselective Preparation of All Possible Anomeric Isomers of D-Glc-(1 2)-D-Glc-(1 6)-D-Glc
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ding Feiqing, Ishiwata Akihiro, Ito Yukishige
2. 発表標題 Stereodivergent O-glycosylation by a "Single Donor": Preparation of Anomeric Isomers of Triglycosides
3. 学会等名 9th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference (Hong Kong) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Analysis of glucose mediated glycoprotein folding events in the endoplasmic reticulum
3. 学会等名 225th ACS National Meeting (New Orleans, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 相川順一、伊藤幸成
2. 発表標題 In vitroで発現したGlycoside Hydrolase Family 47に属する蛋白におけるS-S結合の形成
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊間隆志、相川順一、伊藤幸成
2. 発表標題 出芽酵母 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> における 1,2-マンノシダーゼ欠損株の性状解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2018年度大会（名古屋）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Analysis of ER glycoprotein processing events by means of chemical synthesis
3. 学会等名 International Symposium on ER stress, glycosylation, homeostasis and diseases (Wako, Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶原康宏
2. 発表標題 小胞体内タンパク質のリフォールディングにおける糖鎖機能
3. 学会等名 理研シンポジウム 細胞内糖修飾の統合的ケミカルバイオロジー (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗原大輝、石原俊洋、工藤貴弥、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 キトヒオースペンタペプチドを用いたPNGase類の特異性解析
3. 学会等名 日本化学会第98春季年会(船橋)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川翔太、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 二官能性高マンノース型糖鎖プローブの化学酵素的な合成
3. 学会等名 日本化学会第98春季年会(船橋)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中尾 仁美, 瀬古 玲, 伊藤 幸成, 迫野 昌文
2. 発表標題 ERp29が媒介する小胞体内在レクチンシャペロンのダイマー形成
3. 学会等名 日本農芸化学会 2018 年度大会(名古屋)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ikezaki Midori, Tabata Shotaro, Matsui In-Sook L., Ihara Yoshito
2. 発表標題 Calreticulin is involved in a decrease of insulin in MIN6 cells under reductive stress condition
3. 学会等名 International Symposium on ER stress, glycosylation, homeostasis and diseases (Wako, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Membrane glycolipid synthesis and ER stress
3. 学会等名 International Symposium on ER stress, glycosylation, homeostasis and diseases (Wako, Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Complexity of Sphingolipid Metabolism and Regulation: Metabolic Cross-Talk Between Sphingolipid and Sterol in Lipid Domains
3. 学会等名 Gordon Research Conference on Glycolipid and Sphingolipid Biology (Galveston, United States) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Synthesis of Glycoconjugates for Elucidation of Oligosaccharide Functions
3. 学会等名 Gordon Research Conference on Carbohydrates (Mount Snow, USA) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 New Approach for Chemical Synthesis of Glycoproteins
3. 学会等名 7th Chemical Protein Synthesis Meeting (Haifa, Isreal) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Synthesis of sialyltransferase
3. 学会等名 9th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference (Hong Kong) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sano Kanae, Ogiwara Ken, Ishii Nozomi, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Synthesis of High-Mannose-Type Oligosaccharides for Elucidating Glycolipid Flipping in N-Glycan Biosynthesis
3. 学会等名 19th European Carbohydrate Symposium (Barcelona, Spain) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島田 有彩、真木 勇太、岡本 亮、和泉 雅之、梶原 康宏
2. 発表標題 ハイマンノース型糖鎖を有するシアル酸転移酵素の半合成
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大谷 結子、真木 勇太、岡本 亮、和泉 雅之、伊藤 幸成、梶原 康宏
2. 発表標題 糖タンパク質合成のためのハイマンノース型糖鎖の効率的調製法
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上田 南、今田 翔平、真木 勇太、岡本 亮、和泉 雅之、梶原 康宏
2. 発表標題 Boc固相合成法と大腸菌発現法を用いたIgG-Fcフラグメントの合成研究
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐野 加苗, 宇津井 隆志, 小杉 実沙, 石井 希実, 松尾 一郎
2. 発表標題 アスパラギン結合型糖鎖の生合成過程解明を目指した7糖の合成
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田陽一、今村有希、瀬古玲、伊藤幸成
2. 発表標題 ヒトUGGT1におけるSep15結合ドメインの解析
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中雄大、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 D-グルコースを出発物質としたMan 1-3Glc 1-3Glcの合成
3. 学会等名 第7回CSJ化学フェスタ2017 (東京)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東爽佳、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 His-tagに対して特異的に結合する光反応性プローブの開発と小胞体グルコース転移酵素への導入方法の検討
3. 学会等名 第4回FCCAシンポジウム, グライコサイエンス若手フォーラム2017(葛飾)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口実愛、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 哺乳動物細胞を利用したEDEM1, 2, 3およびその変異体の調製
3. 学会等名 第4回FCCAシンポジウム, グライコサイエンス若手フォーラム2017(葛飾)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 戸田奈穂子、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 ホスファチジルグルコシドの生合成機構解明に向けた基質アナログの合成
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム(桐生)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 折田紗弥、瀬古玲、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 Aspergillus oryzae UGGTの性状解析
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム(桐生)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中雄大、伊藤幸成、武田陽一
2. 発表標題 Glc 1-3Glc 1-3Manの効率的合成ルートの検討
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム(桐生)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takeda Yoichi
2. 発表標題 Analysis of Sep15 Binding to Human UGGT
3. 学会等名 9th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference (Hong Kong) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamamoto Yumiko, Kubo Karen, Hirano Makoto, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Synthesis and activity of multifunctional inhibitor on ER-endomannosidase
3. 学会等名 19th European Carbohydrate Symposium (Barcelona, Spain) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kuribara Taiki, Hirano Makoto, Speciale Gaetano, Williams Spencer J., Ito Yukishige, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Discovery of regioselective mannose-trimming pathways in the endoplasmic reticulum by using selective inhibitors
3. 学会等名 19th European Carbohydrate Symposium (Barcelona, Spain) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shibayama Keita, Watanabe Chie, Hirano Makoto, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Synthetic study of small molecule substrates toward function analysis of endomannosidase in the endoplasmic reticulum
3. 学会等名 19th European Carbohydrate Symposium (Barcelona, Spain) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土本里帆、栗原大輝、岩田昂大、横溝里佳、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 ゴルジ体内 N-結合型糖鎖プロセシングの解明に向けた複合型糖鎖の合成研究
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川翔太、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 二官能性高マンノース型糖鎖プローブの化学酵素的な合成研究
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 栗原大輝、平野真、Gaetano Speciale、Spencer J. Williams、伊藤幸成、戸谷希一郎
2. 発表標題 相補的な阻害剤を用いた小胞体マンノシダーゼ活性の選択的な調節
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会 (旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平野真、渡邊千恵、足立優花、伊藤幸成、ウィリアムズ スペンサー、戸谷希一郎
2. 発表標題 Glc1Man9GlcNAc2型糖タンパク質のカルネキシン/カルレティキュリンサイクルからの離脱機構
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会(旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 有馬薫、加藤友貴、佐竹由衣、今川綾望、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 タンパク質固定化カラムによる小胞体内分子シャペロンの解析
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会(旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井内陽子、上田佳奈、持田沙織、村田顕優、松井仁淑、南方志帆、田尻道子、和田芳直、井原義人
2. 発表標題 細胞外マトリックスmindinの細胞内移行におけるC-mannosyl化の影響
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会(旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋山央子、中嶋和紀、佐矢野智子、長塚靖子、山口芳樹、Peter Greimel、平林義雄
2. 発表標題 新規脳内糖化ステロール群の発見：多様なステロールおよび糖鎖構造
3. 学会等名 第36回 日本糖質学会年会(旭川)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 有馬薫、加藤友貴、佐竹由衣、今川綾望、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 タンパク質固定化カラムによる小胞体内分子シャペロンの解析
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム（桐生）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 土本里帆、栗原大輝、岩田昴大、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 ゴルジ体内N-結合型糖鎖プロセシングの解明に向けた複合型糖鎖の合成研究
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム（桐生）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川翔太、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 二官能性高マンノース型糖鎖プローブの化学酵素的な合成研究
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム（桐生）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本侑未子、久保佳蓮、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体エンドマンノシダーゼに対する多点認識型阻害剤の合成および活性評価
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム（桐生）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 栗原大輝、平野真、Gaetano Speciale、Spencer J. Williams、伊藤幸成、戸谷希一郎
2. 発表標題 相補的な阻害剤が可能とした小胞体マンノシダーゼ活性の選択的な調節
3. 学会等名 第11回東北糖鎖研究会・GlycoTOKYO2017合同シンポジウム(桐生)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 栗原大輝、平野真、Gaetano Speciale、Spencer J. Williams、伊藤幸成、戸谷希一郎
2. 発表標題 相補的な阻害剤が可能とした小胞体マンノシダーゼ活性の選択的な調節
3. 学会等名 東日本糖質若手シンポジウム(桐生)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中尾 仁美、瀬古 玲、伊藤 幸成、迫野 昌文
2. 発表標題 レクチン様分子シャペロン calnexin と ERp29 の相互作用における物理的性質の解析
3. 学会等名 第69回 日本生物工学会大会(早稲田)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中尾 仁美、瀬古 玲、伊藤 幸成、迫野 昌文
2. 発表標題 ERp29は小胞体シャペロンcalnexin, calreticulinと相互作用し、シャペロンダイマーを形成するリンカーとして働く
3. 学会等名 第4回FCCAシンポジウム、グライコサイエンス若手フォーラム2017(葛飾)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中尾 仁美, 迫野 昌文
2. 発表標題 ER内在シャペロンと結合するPDI系タンパク質の探索
3. 学会等名 平成29年度北陸地区講演会と研究発表会(石川ハイテク交流センター)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ikezaki Midori, Yamamoto Madoka, Iwahashi Naoyuki, Ino Kazuhiko, Ihara Yoshito
2. 発表標題 , Calreticulin regulates invasion of extravillous trophoblasts through N-glycosylation of integrin 1
3. 学会等名 International Symposium Systems Glycobiology and Beyond (Wako, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井原義人、井内陽子、池崎みどり、南方志帆、眞鍋史乃、伊藤幸成
2. 発表標題 C-マンノシル化糖修飾と細胞生理機能への関与
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会(神戸)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池崎みどり、松村考、東本菜月、洪川幸直、和田芳直、眞鍋史乃、伊藤幸成、井原義人
2. 発表標題 上皮細胞におけるC-Man-TSR由来ペプチド結合分子のE-カドヘリン発現への関与
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会(神戸)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本円、岩橋尚幸、池崎みどり、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 カルレティキュリンはインテグリン 1への関与を介しヒト絨毛外栄養膜細胞浸潤を制御する
3. 学会等名 2017年度生命科学系学会合同年次大会（神戸）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Lipid glucosylation in the ER and cellular homeostasis
3. 学会等名 International Symposium, Systems Glycobiology and Beyond (Wako, Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Glia-Neuron Interaction: At the Crossroad of Sugar, Lipids and Amino Acids
3. 学会等名 ISN-ESN meeting (Paris, France)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋山央子、中嶋和紀、佐矢野智子、大橋陽子、山口芳樹、Peter Greimel、平林義雄
2. 発表標題 ステロールとスフィンゴ脂質の代謝的クロストークが生み出す新たな糖脂質
3. 学会等名 第59回日本脂質生化学会大会（京都）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋山央子、中嶋和紀、伊藤喜之、佐矢野智子、大橋陽子、山口芳樹、Peter Greimel、平林義雄
2. 発表標題 脳における多様なステリルグリコシド：コレステロールおよび植物ステロール配糖体の完全構造決定
3. 学会等名 第65回質量分析総合討論会（つくば）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田陽一
2. 発表標題 化学的アプローチによる小胞体グルコース転移酵素の機能解析
3. 学会等名 理研シンポジウム「小胞体内糖修飾の統合的ケミカルバイオロジー」（和光）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武田陽一、今村有希、瀬古玲、藤川紘樹、和泉雅之、梶原康宏、伊藤幸成
2. 発表標題 ヒトUGGTの触媒活性に与えるドメインの解析
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会（京都）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐野 加苗、吉村 弥生、松尾 一郎
2. 発表標題 連続的グリコシル化反応によるオリゴマンノシドの合成
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会（京都）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井 希実, 須永 千恵, 吉村 弥生, 熊田 純一, 松崎 祐二, 松尾 一郎
2. 発表標題 ENGaseの糖転移活性を検出するための糖鎖プローブの合成
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会 (京都)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松尾一郎, 大山純平, 斎藤祥吾, 鈴木靖明, 吉村弥生
2. 発表標題 リゾホスファチジルグルコシドの合成研究
3. 学会等名 日本農芸化学会2017年度大会 (京都)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kuribara Taiki, Hirano Makoto, Speciale Gaetano, Williams Spencer J., Ito Yukishige, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Discovery of regioselective mannose-trimming pathways in the endoplasmic reticulum by using selective inhibitors
3. 学会等名 日本化学会第97春季年会 (日吉)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 有馬薫, 加藤友貴, 佐竹由衣, 今川綾望, 平野真, 戸谷希一郎
2. 発表標題 タンパク質固定化カラムによる分子シャペロンの解析
3. 学会等名 日本化学会第97春季年会 (日吉)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 島田 有彩、岡本 亮、和泉 雅之、梶原 康宏
2. 発表標題 ハイマンノース型糖鎖を有するシアル酸転移酵素の半化学合成研究
3. 学会等名 日本化学会第97春季年会（日吉）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chandrashekar Chaitra, Okamoto Ryo, Izumi Masayuki, Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Expanding Semisynthesis by N-terminal modification of expressed protein employing a Hydrophilic Protecting group
3. 学会等名 日本化学会第97春季年会（日吉）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Looking over glycoprotein folding process on the shoulder of carbohydrate titans
3. 学会等名 RIKEN-Max Planck Joint Research Center Fifth Annual Symposium (Berlin, Germany) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kajihara Yasuhiro, Kiuchi Tatsuto, Izumi Masayuki, Takeda Yoichi, Seko Akira, Sakono Masafumi, Ito Yukishige
2. 発表標題 Chemical synthesis of glycoproteins for understanding of glycoprotein quality control system
3. 学会等名 28th International Carbohydrate Symposium (New Orleans, USA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 木内達人、和泉雅之、岡本亮、武田陽一、迫野昌文、伊藤幸成、梶原康宏
2. 発表標題 ハイマンノース型糖鎖を有する糖タンパク質プローブを用いた 小胞体品質管理機構の解明
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会（高知）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 向川友紀、和泉雅之、岡本亮、伊藤幸成、梶原康宏
2. 発表標題 光感性基を有する糖タンパク MCP-1 の合成と小胞体破碎液中での リフォールディング過程の追跡
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会（高知）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 武田陽一
2. 発表標題 トップダウン酵素化学法の開発と糖タンパク質糖鎖の機能解析
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会（高知）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本侑未子、久保佳蓮、平野真、戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体エンドマンノシダーゼに対する多点認識型阻害剤の開発
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会（高知）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柴山佳大, 渡邊千恵, 平野真, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体エンドマンノシダーゼの性状解析を志向した小分子基質の合成研究
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 栗原大輝, 平野真, Speciale Gaetano, Williams Spencer J., 伊藤幸成, 戸谷希一郎
2. 発表標題 シグナル糖鎖産生の選択的阻害を基軸とした糖タンパク質選別経路の解明
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大山純平, 吉村弥生, 松尾一郎
2. 発表標題 Lyso-phosphatidyl- α -D-glucosideの合成
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐野 加苗, 吉村 弥生, 松尾 一郎
2. 発表標題 Flip Flop現象の解明に向けた高マンノース型糖鎖の合成研究
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 石井 希実, 須永 千恵, 佐野 加苗, 熊田 純一, 松崎 祐二, 吉村 弥生, 松尾 一郎
2. 発表標題 5糖蛍光プローブを用いたエンド- α -N-アセチルグルコサミニダーゼの活性検出
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 中嶋和紀, 秋山央子, 伊藤恵実, 岩淵和久, 湯澤由紀夫, 平林義雄
2. 発表標題 HILIC-ESI-MSによるグルコース化脂質異性体の定性・定量分析とその臨床応用
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池崎みどり, 松村考, 東本菜月, 洪川幸直, 和田芳直, 眞鍋史乃, 伊藤幸成, 井原義人
2. 発表標題 C-マンノシル化TSR由来ペプチド結合標的分子がE-カドヘリン発現に与える影響
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 島田 有彩, 岡本 亮, 和泉 雅之, 梶原 康宏
2. 発表標題 ハイマンノース型糖鎖を有するシアル酸転移酵素の半化学合成
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山内 美紀、和泉 雅之、岡本 亮、梶原 康宏
2. 発表標題 合成糖タンパク質を用いたPDIおよびシャペロンの活性評価
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 向川 友紀、和泉 雅之、岡本 亮、伊藤 幸成、梶原 康宏
2. 発表標題 光感性基を有する糖タンパクMCP-1の合成と小胞体破碎液中でのリフォールディング過程の追跡
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 向川 友紀、和泉 雅之、岡本 亮、伊藤 幸成、梶原 康宏
2. 発表標題 光感性基を有する糖タンパクMCP-1の合成と小胞体破碎液中でのリフォールディング過程の追跡
3. 学会等名 第35回 日本糖質学会年会 (高知)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ito Yukishige
2. 発表標題 Analysis of ER Glucosyltransferase by Means of Chemical Synthesis
3. 学会等名 8th Asian Community of Glycoscience and Glycotechnology Conference (Wuxi, China) (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤幸成
2. 発表標題 手作りの化学で小胞体の深奥に挑む
3. 学会等名 日本化学会第97春季年会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hirano Makoto, Watanabe Chie, Ito Yukishige, Williams Spencer J., Totani Kiichiro
2. 発表標題 Functional analysis of an endomannosidase in the endoplasmic reticulum: triaging Glc1Man9GlcNAc2-glycoproteins
3. 学会等名 28th International Carbohydrate Symposium (New Orleans, USA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Totani Kiichiro, Shinoda Yuki, Shiba Masaaki, Iwamoto Shogo, Koizumi Akira, Matsuzaki Yuji, Hirano Makoto
2. 発表標題 Development of silyl-assisted 1,2-cis- α -glucosylation reactions
3. 学会等名 28th International Carbohydrate Symposium (New Orleans, USA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kuribara Taiki, Hirano Makoto, Speciale Gaetano, Williams Spencer J., Ito Yukishige, Totani Kiichiro
2. 発表標題 Inhibitor-based manipulation reveals specific glycosignal production through dual mannose-trimming pathways in ER glycoprotein quality control
3. 学会等名 28th International Carbohydrate Symposium (New Orleans, USA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 戸谷希一郎, 篠田佑樹, 柴正朗樹, 岩本将吾, 小泉亮, 松崎祐二, 平野真
2. 発表標題 シリル基の電子供与性を利用した1,2-cis- -グルコシル化反応の開発
3. 学会等名 第71回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (小金井)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柴山佳大, 渡邊千恵, 平野真, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体エンドマンノシダーゼの性状解析を志向した小分子基質の合成とその活性評価
3. 学会等名 GlycoTOKYO2016シンポジウム (大岡山)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本侑未子, 久保佳蓮, 平野真, 戸谷希一郎
2. 発表標題 小胞体エンドマンノシダーゼに対する多点認識型阻害剤の合成
3. 学会等名 GlycoTOKYO2016シンポジウム (大岡山)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Saito Takayuki, Hasemi Saki, Ishikawa Manami, Yoshimura Yayoi, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Synthesis and evaluation of octyl glycosides for membrane protein analysis
3. 学会等名 28th International Carbohydrate Symposium (New Orleans, USA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ishii Nozomi, Sunaga Chie, Yoshimura Yayoi, Kumada Jyunichi, Matsuzaki Yuji, Matsuo Ichiro
2. 発表標題 Design and synthesis of a high-throughput fluorogenic substrate for Endo- α -N-acetylglucosaminidase
3. 学会等名 28th International Carbohydrate Symposium (New Orleans, USA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松尾一郎
2. 発表標題 糖鎖の化学合成を通してできること
3. 学会等名 第14回 糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム (御茶ノ水) (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hirabayashi Yoshio
2. 発表標題 Metabolism and function of novel brain sphingolipids
3. 学会等名 1st Korea-Japan Bioactive Lipid Joint Symposium (Jeju, Korea) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本円、池崎みどり、東嶋左緒里、岩橋尚幸、南條佐輝子、溝口美佳、城道久、太田菜美、馬淵泰士、八木重孝、南佐和子、井原義人、井籠一彦
2. 発表標題 「カルレティキュリンはインテグリンへの関与を介し絨毛外栄養膜細胞浸潤を制御する
3. 学会等名 第24回 日本胎盤学会学術集会 / 第34回日本絨毛性疾患研究会 (和歌山)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井内陽子、上田佳奈、持田沙織、村田頭優、松井仁淑、南方志帆、田尻道子、和田芳直、井原義人
2. 発表標題 MindinのC-mannosyl化部位の変異はfoldingと分泌に影響する
3. 学会等名 第89回 日本生化学会大会 (仙台)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 上田佳奈、井内陽子、持田沙織、村田頭優、松井仁淑、南方志帆、田尻道子、和田芳直、井原義人
2. 発表標題 細胞外マトリクスmindinの分泌経路におけるC-mannosyl化の作用
3. 学会等名 第63回 日本生化学会 近畿支部例会 (神戸)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山本円、池崎みどり、岩橋尚幸、南條佐輝子、井籠一彦、井原義人
2. 発表標題 カルレティキュリンはヒト絨毛細胞株(HTR8/SVneo)において細胞浸潤能に関与する
3. 学会等名 第63回 日本生化学会 近畿支部例会 (神戸)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shimada Arisa, Okamoto Ryo, Izumi Masayuki, Kajihara Yasuhiro
2. 発表標題 Semi-synthesis of 2,6-sialyltransferase bearing high-mannose type oligosaccharide
3. 学会等名 28th International Carbohydrate Symposium (New Orleans, USA) (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 武田陽一、八須匡和	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京化学同人	5. 総ページ数 5
3. 書名 タンパク質への糖修飾と液-液相分離、現代化学：増刊、相分離生物学の全貌	

1. 著者名 Ito Yukishige, Nokami Toshiki, Kajihara Yasuhiro, Matsuo Ichiro, Ishida Hideharu, Ando Hiromune, Fukase Koichi, Tamura Jun-ichi, Inazu Toshiyuki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 22
3. 書名 Chemical and Enzymatic Synthesis and Production of Glycans in "Glycoscience: Basic Science to Applications"	

1. 著者名 Nakajima Kazuki, Takahashi Kazuo, Yamaguchi Yoshiki, Shinohara Yasuro, Kaji Hiroyuki, Furukawa Jun-ichi, Suzuki Akemi, Haga Yoshimi, Ueda Koji, Suda Yasuo, Hirabayashi Yoshio, Furukawa Kiyoshi, Yamamoto Kazuo, Kawasaki Toshisuke, Honke Koichi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 31
3. 書名 Structural Analysis of Glycans (Analytical and Detection Methods) in "Glycoscience: Basic Science to Applications"	

1. 著者名 Sato Chikara, Kato Koichi, Yamaguchi Yoshiki, Kohda Daisuke, Kato Ryuichi, Suzuki G. N. Kenichi, Kikuchi Kazuya, Hirai Go, Kizuka Yasuhiko, Tanaka Katsunori, Nakashima Yuko, Setou Mitsutoshi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 29
3. 書名 Structural Biology of Glycans in "Glycoscience: Basic Science to Applications"	

1. 著者名 Ikehara Yuzuru, Miyoshi Eiji, Kizuka Yasuhiko, Yamaguchi Yoshiki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 9
3. 書名 Next Generation Medical Care in "Glycoscience: Basic Science to Applications"	

1. 著者名 Nagae Masamichi, Yamaguchi Yoshiki	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 30
3. 書名 Structural Aspects of Carbohydrate Recognition Mechanisms of C-Type Lectins in "Current Topics in Microbiology and Immunology"	

1. 著者名 Ihara Yoshito, Ikezaki Midori, Takatani Maki, Ito Yukishige	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 14
3. 書名 Calnexin/Calreticulin and Assays Related to N-Glycoprotein Folding In Vitro, in "Lectin Purification and Analysis"	

1. 著者名 花田賢太郎、平林義雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 食品化学新聞社	5. 総ページ数 19
3. 書名 セラミド研究の新展開 基礎から応用へ第1章 セラミド研究史概略	

1. 著者名 Amazaki Yoko, Nguyen Hien Minh, Okamoto Ryo, Maki Yuta, Kajihara Yasuhiro	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 19
3. 書名 Glycobiophysics	

1. 著者名 Nakagawa Yu, Ito Yukishige	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Royal Society of Chemistry	5. 総ページ数 21
3. 書名 Solid-state NMR analysis of mannose recognition by pradimicin A, NMR in Glycoscience and Glycotechnology	

1. 著者名 松尾一郎, 石井希実, 宇津井隆志, 佐野加苗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 5
3. 書名 均一な糖タンパク質をつくるーアスパラギン結合型糖鎖の化学合成, 実験医学	

1. 著者名 佐野加苗, 松尾一郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 CMC出版	5. 総ページ数 10
3. 書名 酵素化学法による糖鎖合成, 中分子医薬開発に資するペプチド・核酸・糖鎖の合成技術	

〔出願〕 計2件

産業財産権の名称 卵巣腫瘍の評価用バイオマーカー	発明者 井原義人、井内陽子、南方志帆、櫻井翔、岩橋尚幸、他2	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、2019-10393	出願年 2019年	国内・外国の別 国内

産業財産権の名称 糖ペプチドを製造する方法	発明者 戸谷希一郎、栗原大輝、田中伸司、中町優斗	権利者 KHネオケム株式会社
産業財産権の種類、番号 特許、2021-91853	出願年 2021年	国内・外国の別 国内

〔取得〕 計0件

〔その他〕

<p>・本課題の期間中に以下の受賞（国際学会2件、国内学会1件）があった 伊藤 幸成 2021 ACS Hudson Award in Carbohydrate Chemistry 梶原 康宏 International Carbohydrate Organization, 2020 Roy L. Whistler Award 伊藤 幸成 2017年有機合成化学協会賞</p> <p>・研究代表者に関する情報 https://researchmap.jp/yukishigeito https://orcid.org/0000-0001-6251-7249 大阪大学理学研究科 基礎理学プロジェクト研究センター http://www.prc.sci.osaka-u.ac.jp/about-us/organization</p> <p>・分担者に関する情報 群馬大学大学院理工学府 松尾研究室 https://matsuo.chem-bio.st.gunma-u.ac.jp 和歌山県立医大 生化学教室（井原研究室）https://www.wakayama-med.ac.jp/dept/igakubu/160415/index.html 成蹊大学理工学部 戸谷研究室http://www.ml.seikei.ac.jp/totaniLab/Totani_Lab/Home.html 立命館大学生物工学科 武田研究室http://www.ritsumeit.ac.jp/lifescience/skbiot/bmclab/index.html 大阪大学理学研究科 梶原研究室 http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/lab/kajihara/research_synth.html 東北医科薬科大学 分子生体膜研究所 糖鎖構造生物学教室（山口研究室） https://www.tohoku-mpu.ac.jp/pharmacy/lab/lp_e02/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	武田 陽一 (Takeda Yoichi) (20423973)	立命館大学・生命科学部・教授 (34315)	
研究分担者	松尾 一郎 (Matsuo Ichiro) (40342852)	群馬大学・大学院理工学府・教授 (12301)	
研究分担者	梶原 康宏 (Kajihara Yasuhiro) (50275020)	大阪大学・理学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	迫野 昌文 (Sakono Masafumi) (50391959)	富山大学・学術研究部工学系・准教授 (13201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井原 義人 (Ihara Yoshito) (70263241)	和歌山県立医科大学・医学部・教授 (24701)	
研究分担者	戸谷 希一郎 (Totani Kiichiro) (80360593)	成蹊大学・理工学部・教授 (32629)	
研究分担者	平林 義雄 (Hirabayashi Yoshio) (90106435)	国立研究開発法人理化学研究所・開拓研究本部・客員主管研究員 (82401)	
研究分担者	山口 芳樹 (Yamaguchi Yoshiki) (90323451)	東北医科薬科大学・薬学部・教授 (31305)	
研究分担者	石渡 明弘 (Ishiwata Akihiro) (70342748)	国立研究開発法人理化学研究所・開拓研究本部・専任研究員 (82401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
スイス	Institute for Research in Biomedicine			
オーストラリア	The University of Melbourne	Walter and Eliza Hall Institute		
中国	江南大学			
ニュージーランド	University of Canterbury			
アイルランド	National University of Ireland			

共同研究相手国	相手方研究機関			
カナダ	McGill University			
オランダ	Leiden University			
スウェーデン	Lund University			
英国	University of Cambridge			
スペイン	Unidad de Investigacion Traslacional			